無產階級戰鬪雜誌

昭和三年五月一日發行　昭和三年四月二十八日印刷納本

第六年第五號

日本勞働黨日本平民黨時代
日本最初のメーデーの思出
朝鮮共產黨判決書全文

全土戰報

醜惡なる選擧の上に立てる內閣はいづれも不正だ。
政友會も民政黨も皆吾等の敵
戰線統一を以て再解散に答へよ

進め

日本共產黨とスパイ

物語　ヴァルガの船人

英國農民史要

合同協議會決裂批判

舊勞農黨の暴露方針は如何に戰線を攪亂せしか

野田爭議解決す

搾取行刑政策と自由勞働者の失業關係

時評
宗派主義者の暴言を懲せ
農民團體の合同問題
山東出兵その他

資料
明治初期以來の結社禁止の歷史

講座～資本主義・社會主義

定價十錢

五月號

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

進め社本部取次書目（全部壹圓）

青野季吉著　解放の藝術
◇氏の一評は文壇の一波、故に曰、青野の論争亡の浜、評界又大地震と

幽靈讀者
◇勞農藝術家聯盟の鬼才山田清三郎氏の著也、プロ文學の典型普羅小説の岡山、嗚呼氏の活躍と大新聞奨勵

幸徳名文集
◇文豪秋水が遺の名文は世既に定評あり後世評して秋水の秋水併國民文學の精髄國民必携の大寶典と稱する誠に故ある也、黙に宜傳用普及半額版も發行す

秋水書簡集
◇本書は前の葉反國大逆にて曰『志士の決心同志の友情われわれ讀むに堪えたり孝子の純真烈母の愛情われ讀にくに堪えず』と、宣傳用普半額版ある所以か、

新消費組合論
◇新界權威の博士次長學者實際家共同執筆組合長新落格責任特輯、既に久しく絶版、但普及宣傳半額版あり

地震憲兵火事巡査
◇『久さん未遂で無期懲役、計前三たりて假出獄』也

堺利彦著　社會運動史
◇石川三四郎曰『堺著定價六圓の西洋社會運動史千餘頁を簡潔に壓縮した良書の標本廉價の見本だ』

ユートピア集
◇幾度か企てられ幾度か中止せる難業を著者守山有秋氏の努力が今や之を完成した。1思想2古代及中世3近世4日本5比較の五篇廿章

岡陽之助著　日本社會運動史
◇興味中心文學本位の日本社會運動史論1搖籃2發展3活躍4闘爭5反動6分裂六篇六時代。波瀾重畳の劇作と人物が躍動す

佐倉啄二著　製絲女工虐待史
◇著者『製絲工女は細井氏女工哀史の紡績工女を羨んでます』
◇藤森氏『嗚！、巧妙の搾取戦慄の悲惨女工哀史以上の虐待史』
◇山崎伯爵『僕も蚕蛹を食べて製絲場で働いた。此本は全く本當だ』

近藤憲二著　勞働運動史
◇著者は勞働運動史の權威、曾て保釋中日本共產黨事件で入獄亡命、今や北風會の作で運動史を研究満五年の作して天下の勞働者に獻ずるもの此の一あらん乎。九章三百頁、

小川未明社會小説集　彼等甦らば
◇著者は明治大正昭和を通じて最も特異な地位を占むる作家文壇生活二十年、本書亦その純真熱情は聊か氏の最も近作、本書はかゝる氏の十有七篇、皆之れ氏の最近の見識から選んだ傑作を許さん哉。

中西伊之助著　武左衛門一揆
◇著者曰、武左衛門は佐倉宗五郎の亡い所謂義民の類でない。本書は近代的な先駆革命家であつた。全篇は彼れの過去の運命よりギロチンの露と消えた悲劇は之れ彼の信仰殺の分心の作だ。

山内房吉新著　社會思想解説
◇無産階級的社會思想の大衆的解説を求むる大衆の要求に答へる、各々の社會主義を平易に解説、…社會主義の諸派…

神道伸之介著（進め社パンフレット）
農民諸君に與ふ
一部十錢　送料二錢

私は諸君が十六七の愛すべき青年男女であると假定する、諸君の中には、或は都會の商店へ小僧に行つた人もあらうし、又同時に、朝日夕日を白壁の家で迎へる人もあらう。はじめて胸を躍らせて諸君が中學時代の教育を受けた事を思ひ、私はその父母から求められる所を望み、その父母の心の容れる所と何たるかをも知る事が出來るなら、しかし、私は諸君を求めて聞かなかつた事が出來る。（付頂の一節）

行政長蔵著（四六版上製函入）
農村の經濟
總頁二百餘頁　定價金一圓五十錢　送料金拾錢

現今最も行き詰つた農村問題は從來の如き決方的學説、經濟的研究を以て解決するものでなく、現實の農村問題より生めて出來る、農村の經濟、この本書は此のブロレタリアの立場からして、所謂農村經濟の一新提唱に對し、農民を覺醒せしめる道を示し、農村の實際に就ての方策を求めるものである。

菲原達著（四六版上製函入）
農民組合論
總頁二百二拾餘頁　定價金一圓六拾錢　送料金拾錢

我國の農民運動は勃興日尚淺い。而かも其の彩しき進展は一般世人の注目を惹くに至つた。本書は農民運動の系統的概念を與へ、農民組合の何たるかを知らしめるに充分である。農民運動に從はんとする者に必讀の書である。

【要目】第一章、緒論、第二章、農民組合の本質、第三章、農民組合の組織、第四章、農民組合の財政、第五章、農民組合の目標、第六章、農民組合と政治運動、第七章、農民組合の方法、第八章、日本農民組合、第九章、土地、第十章、附録。

安部磯雄著（四六版百三拾餘頁）
人口問題と産兒制限
定價一圓　送料八錢

人口問題・食糧問題は如何なる方法に依りて解決さるゝか。或は産兒制限は如何に社會の必要であるか。著者安部氏は産兒制限の主張者として、本書に於て之を論ずる。

進め社編
マルクス寫眞集
定價五十錢　送料四錢

マルクスは全世界の勞働階級の父であり、偉大なる指導者である。マルクスの肖像をはじめ、其の他マルクスの功績を偲ぶべき寫眞を集めたもの、内助者エンゲルス、其他マルクスの足跡を辿つて斯く集めたるものである。無産階級は大いにマルクスの歴史的使命を完からしめよ。

淺野研眞編
何を讀むべきか
定價二十錢　送料二錢

現代は讀書の時代である。しかし何を讀むべきかは何人も知らない。本書は新しい思想を知らんとする人々の爲に、何を讀むべきかを指針として書かれた新刊書の要目である。

戰線統一をもつて政局に備へよ

日本共產黨檢擧に次ぐ勞農黨、評議會、青年同盟の解散、山東出兵こうしたあわたゞしい田中內閣の狂行は、單に一田中內閣のみの苦悶憂慮を代表するものでは無い。共產黨檢擧、勞農黨解散それは洵に時宜を得たるものであると民政黨は云ひ、××の××貴族院、樞密院は更に嚴重なる取締りを續行されたしと激勵しつゝあるところを見ても、かゝる暴擧は全支配階級の一致協力せる力によつて行はれたものである。吾々無產大衆が例へ勞農黨系のものにあらずと雖も犇々として抗議反對する所以のものは支配階級の企圖が單なる無產運動陣營の一角をのみ切崩すものにあらずして、全線的崩壞の爲めあらゆる努力の集中されつゝあるを意識するからである。然るに奇怪なるは日本共產黨の殘黨である。彼等は日勞黨その他の聲明書を目して、日本共產黨檢擧を喜び勞農黨の解散をたゞ大衆團體の打壞し反對といふ皮相的な立場からの反對にすぎず、前衞を大衆團體の引離しに對しては双手を擧げて拍手を送つてゐるとあらぬ揑造中傷をほしいまゝにしてゐる。彼等は云ふ、見よ、日勞黨は『宗派主義者排除』を執拗に主張したではないかと。吾々は日勞黨にあらねども、長きにわたつて吾が戰線を分裂攪亂した日本共產黨一派を宗派主義として排擊した。吾々は彼等を前衞として排擊したのではない。前衞の名をかたるニセ前衞として排斥した。見よ、彼等の所業は狂人的分裂策動と、支配階級の攻擊に際を與へる以外何ものもなかつた。古い事は云はぬ。共產黨檢擧は、その殘黨によつて共產黨尙死せずその他效果なくいたづらに官權に捜索上の便宜を與へる以外に何ものもなき行動を爲した。かくして、さなきだに反動的政府は得たりかしこと檢擧を擴大し證據物件を擧げつゝあると傳へられてゐる。彼等は多くの鬪士を戰線に活動せしめざらんとして、好んで同志を牢獄に送らんとするスパイの行動である。この一事を見ても、よし彼等がスパイにあらずとするも、事實にスパイたる小兒病者の行動であり、日本無產運動に百害あつて一利なき奴等である。眞に健實なる無產運動の進展に思ひを致す者はかゝる小兒病者を害毒の名の下に葬り去らねばならぬ。スパイ的小兒病者を排擊したる戰線統一こそ、言論、集會、結社の自由を壓迫する田中內閣に對する唯一のふくしゆうであらねばならぬ。

さて、かゝる味方の陣營內の動搖の中に、普選最初の特別議會は開かれつゝある。田中內閣はこの議會を如何にせば無事に通過せんかとして、中立議員の抱込、野黨の切崩しを行ひ、つひにはファシストの眞似をする。御用×××の橫行、前記の共產黨檢擧、勞農黨解散、議會中心主義否認の聲明、かくして花火玉が爆發し、芝公園の酒盛りが初まる、昭和維新の合言葉が街頭に張り出だされる。然して、不信任案が民政明政無產各派の一致によつて通過の見込立つや否や議會再解散を主張する。吾等は、總選擧以來、無產黨の任務はあらゆる反政府勢力を糾合して田中內閣の倒壞に向はねばならぬと叫び來つた。吾等にして無產黨が田中打倒に勢力を集中し、議院の空氣險惡を告げつゝあるを喜ぶ。現在の狀勢によれば野黨協力の必要上、內相彈劾案に合流するものゝ如しである。若しこの案通過すれば、政府の採るべき道は一、總辭職二、內相更迭三、再解散の三つである。政府にして首相の一蓮托生說を捨てゝ二の場合を取る事あらば、吾等はあくまで內閣そのものゝ不信任案の通過を期せねばならない。一、三の場合を政府がとるならば、總括的不信任案と同一義となり得る。しかし吾等は民政內閣にも反對する以上、干涉と暴壓買收に汚れたいまはしき普選議會を解散するを至當とする。

棚ぼた式政權授受を夢見る民政黨の幻想を擊破せねばならぬ。汚れたる選擧の上に立てる內閣はいづれも不正だ。吾人は再解散を期待する吾等の成長は戰ひの中にある。しかしながら、吾等は二月の總選擧の苦々しき教訓を忘れてはならない。分裂主義を排除しての戰線統一こそ田中內閣を初めすべての支配階級現下の政局無產大衆の要望に答へる唯一の答へである。田中反動內閣を倒せ。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

時評　宗派主義者の暴言を懲せ

去る三月十五日の日本共産黨の檢擧は記事差止の命令によつて、公表を禁止されてゐたが、四月十日に至つて一部の解禁を見た。と同時にこの日本共産黨に密接な關係を有してゐた勞農黨を初め勞働評議會・無產青年同盟が解散された。吾々は過古において、無產運動の陣營内における對立鬪爭を續けて來たものゝ、支配階級の斷壓に對しては無條件的に抗議運動を進めて行つた。然るに奇怪なるは日本共產黨の殘黨及びその關係者で、彼等は、無產者新聞その他の機關紙を通じて日本勞農黨を初め社會民衆黨は大衆團體のぶつこはし政策にはいさゝかの關心をもつて抗議がましい事はするが、大衆團體からコンミュニストを引離す事には贊成する。即ち、日本共產黨の檢擧を拍手してゐると漫罵をほしいまゝにしてゐる。彼等は、日勞の聲明書の中には宗派主義者、福本一派の排除を執拗に要求してゐるではないかと云つてゐる。大衆團體が、前衛分子によつて指導されねばならぬ事は、今更喋々を要せぬところである。しかし、現在大衆團體を率ゆるに足るものが福本一派であらうか。前衛は正しき客觀的狀勢の認識からして、大衆團體を率ゆるべきであつて、單に觀念的な立場においては前衛の資格がないのである。然るに、福本一派は或ひは分裂を策動し、これを合理であると嘘をつき、頭ばかりの組織方針を取り、その指導が民衆の生活とは何等ふれるところがなかつた。

されば こそ、大衆が續々と反亂し甚だしきは反動的團體に迄變ずるに至つた。吾々が福本一派を排擊したのは、前衛の排擊にはあらずして、彼等が前衛に適任せざるの、即ち、前衛に名を借りて無產運動を混亂せしめるものとしての理由によつて排擊したのであつた。然るに、日本共產黨の殘黨は、吾々こそ共產主義の一手販賣なるかの如く思ひ込み、吾々以外に指導するものは無いと思ひ込んで、日本勞農黨を目して社會民主主義の集團であると爲し、コンミュニストの排除には贊成してゐると不埒にも思つてゐる。

この無鐵砲な考への上にこそ、吾々の抗議をねたんでゐる。このねたみは、小兒病者の指導から脱れて眞の着實な運動に向はんとする大衆の聲をおそれるところから出てくる。宗派主義者は、新黨の組織に際しては自分等を度外視したら何にもならぬ。そんな組織はやめた方がいゝと云つて、大道派の勃興を極度におそれてゐる。

コンミュニストは何等實效なきビラをまいて、敵に乘ずる機會を與へるものではない。福本一派はさうした勞農黨解散や、一齊檢束の機會をあたへて運動を混亂せしめる樣な、觀念的な小見病的な運動ぶりより爲し得ない。

骨迄くさつたニセ前衛をたゝき出して、眞の前衛を前面におし出せ。

誠意を逆宣傳の資料となして、無產運動の混亂を助長する宗派主義者を排除しろ。吾々は彼等の中傷漫罵を受け、最初の義憤、誠意もどこへかに飛んで了つたのを悲しむ。

農民團體の合同問題

過日の大阪中ノ島公會堂に開かれた全國農民團體合同協議會は、全日同盟の幹部諸君によつて農民は農民黨を組織すべしとの合同條件によつて決裂した。農民と勞働者の結合の必要はすでに屡々論及してゐるからこゝでは論じない。然るに、全日同盟及び中部農民組合の右翼幹部諸氏はあくまで農民は農民黨へのスローガンを捨てないで右翼農民團體の合同を計畫し、十六日芝協調會にて、中部農民、全日同盟、農民總同盟等會合して、左の合同條件、農民運動の基本條件を決定した。

農民運動の基本條件

一、農民運動は共產主義に反對する指導精神に基き日本の農村實情に即する事。

二、組合は小作條件改善運動の外協同經營を中心とする農業の統一を急速に促進する事

合同基本條件

一、農民運動の基本條件を承認する各組合は其の合同を實現すること。

二、合同せる組合は農民自體の政黨を組織する事。

三、新政黨は農民大衆の獨自性を尊重する合理的組織の下に同一指導精神に立つ無產政黨と適當の時期において合同する事。以上

右の農民運動の基本條件は、右翼農民團體のいづれにも共通するところであつて、合同條件はいづれも備へてゐる。合同の基本條件の一には、かけひきになれた全日同盟の幹部の農民黨の主張が強くおし出され、その三には社會民衆黨の積極的參加の理由を發見出來る。

吾々は彼等が殊更に資本主義社會の本質をわきまへず、勞働者のヘゲモニーを排擊して、農民を離れ〳〵の地位におかんとしてゐる事を、強く反對しなくてはならぬが、單なる向ふ見づの反對に終つてはならぬ、何故なら、今迄左翼的無產團體の農民に對する方針が正しかつたと云ふ事が出來ないからである。私は四月號の時評欄において勞働者のヘゲモニーの機械的な農民へのおしつけの誤謬なるを指摘した。日本の農村の實狀に適したる運動の必要を高唱しておいた。しかし、吾々は、こうした方針も××主義を放擲した立場から採用してはならぬと主張する。資本主義社會における無產運動が××主義の下に進まねばならぬ必然性をもつ時、農民にその放棄を強要する事は無產運動の健實性に對するボイコットである。右翼農民團體の策動は、斷然として排せねばならぬ。しかし、吾々は左翼思想の機械的ふり廻しをあらためねばならぬ。イタリーにおいて、社會黨の誤れる農民政策が、農民をしてファシズムの團體におしやつた事を思ふなら、農民の獲得が單なるおしつけや、機械的共同戰線の誤りをすみやかに訂正し無產運動の合理的な形態を促進しなければならない。

農民がイタリーにとゞまらずすべての國において、その共通的心理として保守的反動的な傾向をもつてゐる事は爭はれない。こゝに、右翼農民團體の成立と存在の根據がある、吾々はこれを凝視しなければならない。農民を戰闘的組織に獲得する最善の道を講ぜずして、いたづらに右翼農民組合の行動を非難するは當らぬ。

以上の見地から、この右翼農民團體結成を眺むる時、其處に幾多の教訓を發見するであらう。眞に勞働者農民の同盟を結ばんとする者はこゝに思を致し、農民は農民黨へのスローガンを擊破せねばならぬ。

山東出兵反對その他

田中內閣は治安維持法をもつてさんざんあばれ廻つたが、支那で北伐軍の勢力山東に伸されんとするを見てとるや、利權擁護の爲め矢も楯もたまらず、いざ出兵と決定した。居留民保護の名を借りて出兵費百四十万圓を捨て行くのだが居留民の保護で無い事は明かだ。居留民は出兵によつて再び排日の危險を感ずるに至る。日本人と出兵とを聯關的に支那人に考へさせたのは資本主義滿蒙政策の結果であつた、日本帝國主義の根城を脅威さるゝ時において反動政府が出兵を企てるのは必然であらうが、日本無產階級は絶對に反對しなければならぬ。無產階級は支那の××を助力しなければならぬ。無產運動は一國のみの問題ではなく、國際的な運動である。支那の狀勢如何が日本の二階級に與へる影響を考へるならば支那の反帝國主義運動をたゝき潰さんとする出兵に對しては反對せねばならぬ。出兵費が國民のふところより出づる事を考へ、出兵によつて益する事無きを思ふならば、一大大衆運動によつてこの企でを粉碎せねばならない。

時は特別議會である。無產黨代議士はこの出兵の根據野望を暴露すると同時に、對支非干涉の運動を猛烈に院外において喚起せねばならない。

× ×

田中內閣は學問の自由、大學の神聖をふみにじる事ぐらゐは朝飯前ぐらゐに考へてゐる。共產黨事件の如きは大學の左傾敎授の仕業であるといきまいて、京大の河上、東大の大森、東北大學の新明その他の敎授連にいはれなき壓迫を初め首をしめたので、河上博士は強制的に辭職させられて了つた。河上博士は日本における最大のマルキスト學者であつて、氏の在職する限り學究の自由はあり得るものゝ如く見えた。然るに河上氏は去つた。大學は今や完全に支配階級の魔手に蔽はれて了つた。この事は階級闘爭の深刻化を示すものである。階級闘爭に超然たる學問はあり得ない。吾々は無產階級の輝ける理論家としての河上氏の新らしき闘爭の首途を祝福する。

× ×

共產黨檢擧以來、その殘黨によつて『共產黨何死せず』云々のビラを撒布されつゝあるが、これによつて官權はいやが上にも[illegible]あると傳へられてゐる。吾人は日本共產黨の小兒病的態度がいたづらに支配階級に口實を與へ[illegible]吾等の敵であり、支配階級の走狗であると云はざるを得ない。（神庭）

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

日本勞働黨日本平民黨時代

福田狂二

四月十日けたゝましい號外賣りの聲に、かねて、豫期されてゐた、勞農黨解散を知つた。私は勞農黨員ではないが、同じ無産階級として、等閑視すべからざる壓迫であつた。日本の無産者は言論の自由も無く結社の自由ももつてゐない。勞農黨の運命もやがては明日の吾等の運命である。

私は大正三年に二回政黨組織を爲して、二回とも禁止された。この事は、過日の東朝に紹介されてあつたが、現在の社會運動史の中には少しも記されてゐないから、記憶を辿つて紹介し、諸君の參考に供したい。

何分、四十一年の赤旗事件、四十三年の大逆事件ぼつ發後の社會運動は影をひそめる程壓迫が激しかつた。

日本勞働黨

日本勞働黨は、大正三年五月二十五日福田狂二、金子廣佐藤悟、野澤重吉、藤田貞二土倉聰明、江川喜一、櫻井松太郎等約二十七名顧問片山潜氏によつて企てられ、結社屆を京橋築地警察署に提出し、事務所は京橋區三十間堀に置き、發會式を擧げた。片山潜氏が來て演說をした。片山氏は羊羮色の紋附の羽織でやつて來た、宣言、綱領を大阪、名古屋、廣島、福岡、橫濱等の同志に配布し、多數の加盟者を得て活動に入らんとして、たまたま、東京市電從業員の不平をきゝ全市の從業員を總同盟罷業の煽動を試み六月十四日芝大門運轉手、交代所に野澤重吉氏がビラを配布し、演說を爲せしところ、芝警察署長は、巡査二十名を引いて來た。野澤氏を拘引し幹事長の私に築地警察が出頭を命じたが應ぜず、私は翌日小石川區指ケ谷町に於て拘引され、築地署に送られ、署長より結社禁止の命令を受けた。

日本平民黨

日本平民黨　大正三年六月二十三日結社、前日本勞働黨の發起者、並に印刷工、人力車夫等百六十名ばかりであつて、事務所は矢張り前記の京橋三十間堀にあつて、第一回の演說會は發會式を兼ねて、築地の某寄席でやつた。その翌日から大逆事件の入獄者の大赦あらん事を、時の司法大臣尾崎行雄に請願し、私や、金子、佐藤氏等は最も强硬に交涉し、秘書官は巡査を呼び、追出した。尙電話にて、數回に涉り交涉した爲め遂に日本平民黨を解散せしむるに至つた。

この當時は堺、山川、大杉氏等は無政府主義に心醉し、合法運動を否認し、政黨を作る事は墮落である位に非難して、そして堺一派の賣文社は吾々の運動を冷視し、「へちまの花」ぐらひを出してユーモアを飛ばし超社會的地位にあつて、實際運動をやらうとする氣がなかつた。片山氏がその後米國に去つたのも、堺一派の壓迫即ち、本屋に對して片山氏のは誤譯だらけだなどゝ云つてその生活を苦しめた。その著書は、大日本文明協會の出版で安部磯雄氏の名で出てゐるが、實は片山潜氏の譯であつた。堺氏等は、かくの如く、非社會的な行動を取つてをられたにかゝはらず、平民黨員は普通選擧同盟會員であるから、先づ議會主義で進んで行つてよからうと云つて、全國に涉つて、普選即行の宣傳を爲し、又、新日本評論と云ふ機關紙を發行し、政治、勞働問題を批判した。しかし、賣文社一派の著した、日本勞働運動史などにはこの事が一行もふれてゐないのは實に奇怪な事であつて、閥の偏狹を示すものである。

此日本勞働黨や、日本平民黨の抹殺は堺山川荒畑氏等の分裂主義的精神より出でしものであるが私等は虛榮賣名の徒に非らず、敢て世上で知られなくてもよい、しかし片山潜氏、西川光次郎氏の運動は彼等が抹殺して居る事が多い、この事を憤慨して居るのは敢て私許りでない、何れ次號から小野虎之助氏が社會主義正史を書かれるから研究者に取りては驚くべき事實が現れるであらう。

日本勞働黨々則

綱領

土地資本の國有
階級打破
教育平等
男女平等
軍備撤廢

政策

一、二十才以上の男女に選擧權を與ふること
二、人民の直接立法宣戰講和人民をして決定せしめること
府縣市町村は自治制を布きその官吏は人民の投票に依つて行ふこと
三、總ての人民に兵役の敎練を與へ常備軍に變ふるに國民軍を以てすること
四、思想、討究の自由を認め出版結社に關する法律の制限を廢止すること
五、男女を平等の地位に立たしむること
六、敎育は小中大學共に國費を以て經營しその生徒の學費は國家が負擔すること

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

七、訴訟及辯護は一切無料とすること

八、病人の治療は無料とし、葬儀も國費を以て爲すこと

九、富豪に對して累進税を課すること

十、勞働組合法を制定すること

イ、八時間勞働を實施すること

ロ、滿十八才以下の者に勞働を禁止すること

ヘ、團結の權利を確立すること

黨則

一、本黨は法律の範圍内にて綱領の實行を期す

一、本黨は綱領を賛成したるものを以て黨員と爲す

一、本黨は幹事五名を置く、幹事長は互選するものとす

一、本黨員は黨費(毎月十錢)を納付せしむ

明治初期以來の結社禁止の歴史

(東京朝日新聞調査)

東洋自由黨

無産政治の結社のらんしやうともいふべき東洋自由黨は明治十五年五月二十五日、大和の人樽井藤吉、赤松泰助氏等によつて天草の亂では緣の深い肥前原島江東寺に成立した、そのいふ所は「我黨は平等を主張す」とか「我黨は社會公衆の最大福利を目的とす」とかいひ今日から見れば無政府主義團體であつたといふ者もあるし、國家社會主義團體だつたといふ論者もあつてその正體は餘り判然してゐない。

同年七月七日長崎警察署長の名をもつて「東洋社會黨の儀は内務卿において治安に妨害ありと認め禁止致すべきにつきその旨心得べし」と通達しその結社を禁止した事實をみると當時としては相當進步的の團體だつたらしい、これがわが國における最初の結社禁止の事例らしいが當時は「集會政社法」によつて處斷したもので今日の治安警察法が適用されたのは三十三年以後のことである

車界黨

明治十六年自由黨の名士で後に大逆事件に連座した奥宮健之が東京で人力車夫の一群を率ゐて馬車鐵道反對同盟なるものを組織し後に社會黨をもじつて車界黨と命名し急進主義者を網羅して盛んに急進的運動を續けたので政府は同年解散を命じた

×

社會民主黨

明治三十一年十月岸本能武太、村井知至氏等によつて開設された社會主義研究會は三十三年に至り前記の單なる研究者はいづれも脱退して純粹の社會主義者からなる社會協議會が組織され續いて三十四年五月二十日この社會主義協會の間からわが國社會主義運動に劃期を與へた「社會民主黨」が生れた

この創設に當つたものは自由黨の左翼幸德傳次郎並にキリスト教進步派と目せらる、安部磯雄、片山潜、木下尚江、西川光二郎、河上清氏等六人で社會民主黨は即日結社の禁止を命ぜられたが、これが現行治安警察法による結社禁止の最初の事例である

社會平民黨

社會民主黨の結成禁止の結果同年六月三日同じく有志者によつて再び社會平民黨の結成が企圖されたがこれまた即日禁止されその後同年十月になつて社會主義協會なるものが成立するにおよびその後の社會主義運動はしばらく政治運動から再び教育的傳道の方針に逆戻りすることになつた

日本社會黨

この間わが國の社會主義運動は主として平民社によつて代表せられてゐたが平民社は日露講和と同時に自ら解散し次いで三十九年一月西川光二郎、樋口傳氏等によつて「普選の期成」を綱領とする日本平民黨が組織され、續いて堺利彦、深尾韶氏等によつて日本社會黨が成立し三十九年一月二十八日には右兩黨が合同して日本社會黨を作つた

その綱領第一條に「本黨は國法の範圍內において社會主義を主張す」と掲げた、同黨は片山潜、堺利彦、西川光二郎、山口義三氏等を幹部にあげ、翌四十年二月十七日錦輝館に開かれた第二回大會では議會主義排擊の論議が戰はされる等その運動はます〳〵進んだので同月二十二日をもつて遂に解散を命ぜられてしまつた

平民協會（明治四十年十二月二十二日結社、同二十七日禁止、片山潜）

社會黨（四十四年十月二十五日結社、同二十七日禁止、片山潜）

獨立勞働黨（四十四年一月七日結社、同九日禁止、幸内久太郎）

日本勞働黨（大正三年五月二十五日結社、同六月二十三日禁止、稲田狂二）

日本平民黨（三年六月二十三日結社、同七月三日禁止、稲田狂二）

日本社會主義同盟

大正九年十二月十日神田青年會館に開かれた日本社會主義同盟創立大會は開會と同時に中止解散を命ぜられたが同盟だけは辛くも結社として成立を遂げ、大杉榮、山川均、堺利彦、岩佐作太郎、大庭柯公、荒畑勝三、加藤一夫、高畠素之、麻生久、赤松克麿、加藤勘十、高津正道氏等を始め社會主義者無政府主義者の外友愛會、正進會、交新勞働、日本時計工、鐵大總同盟の勞働組合新人會、建設者同盟、曉民會、扶信會等各種各樣の團體を網羅したが本同盟は翌大正十年五月第二回大會後解散を命ぜられた

農民勞働黨

大正十四年十二月一日加藤內閣若槻內相のもとに結黨式後僅かに三時間にして解散を命ぜられその禁止理由は「結黨式をあぐるに至るまでの內面的の經路等を照し合せた結果治安に妨害あり」と認められたに基くものであつた

日本最初のメーデーの思ひ出

高田和逸

斯やうな題名を掲げると、如何にもその事が遠い昔の事であり、古い事のやうでもあり、殊にこんなことを書く私自身も極めて古い昔の人間のやうでもあるが、事實は九年前のことであるから、そんなに古い事ではないのである。

メーデーの歴史は、一八八六年五月一日（明治十九年）に初めて米國の勞働者に依つて

今日より後、一人の勞働者も八時間の上は働くな

八時間の勞働！

八時間の休息！

八時間の教育！

と云ふ標語を掲げて、一大示威運動を決行したに始まるといふから、歐米諸國に於ては可成り古い歴史を有つものであるが、吾國に於ては、遺憾ながら是より後れること、約三十三年の後、即ち大正九年五月二日を以て初めて記念すべき吾國最初のメーデーを擧行するに至つたものである。其後、回を重ねること九回、今年第九回のメーデーを擧行するに當り、約十年の昔を顧みて、其の當時のことを思ひ出しては、何となく懐しみを感じ、懐しさを想ふまゝに、思ひ出の一片として書き綴る氣にもなつたのである。

其の當時、或る社會主義者の一人から聞いたことであるが、メーデーの最初はその前に社會主義者の人々に依つて日比谷公園に集合して或る種の示威運動をしたが解散を命ぜられたことがあるから、それが最初のものだらうとの話であつたが、そうした集合のあつたことは、私は勿論、知らないことではあるが、又事實あつたとしても、それは所謂一部の主義者の人々の集會であつてメーデーの意義「總ゆる勞働者の祝祭日」といふやうなものではなかつたであらうと思ふ。

然るに大正九年のメーデーは兎にも角にも各種の勞働者が集合して、はつきりした目的意識を持つて運動をしたものであるから、矢張りこの時のメーデーを以て最初のものであるとすることが妥當であらう。

丁度、其の年の二月頃、寒い夜のことであつたが、或る集會の歸りに當時左傾組合であつた正進會の桑原錬太郎君が「高田！今年はメーデーをやらうぜ！」と云つたので「うん！やらう」と返事をして別れて仕舞つたが、さて、メーデーをやらうと引受けたものゝ、實を云ふと其頃の私等は、メーデーと云ふものが何であるか、そうして何をすることだとそれさへ知らなかつたのである。

今から考へて見ると實際、馬鹿らしいことのやうであるが事實そうであつた。私は當時現在の總同盟の前身である友愛會に關して居つたので友愛會本部へ行つて、この知らないメーデーを決行することを盛に主張したものであるが、本部に集會するその多くの者が矢張り知らなかつたことなのであるから面白いではないか。

もつとも、其頃はメーデーのことを説明した文書といふものが極めて少かつた。或る書物で見ると、明治二十年二月に創刊した徳富蘇峰の「國民の友」誌上には「歐洲の社會黨のメーデー示威運動の實況を報ずる長文」を掲げた。など云ふことが書いてあるところから考へると、其の後も引續き種々の書物に書かれて居つたものに相違ないが、私等は其の頃迄、メーデーの記事といふものは不幸にして一つも讀んだことがなかつたのである。

それどころではなく、其年の前年（大正八年）雜誌「解放」（現在の解放に非ず大鐙閣版）の六月號へ山川菊榮氏が「五月祭と八時間勞働の話」と題して詳細に書いて居つたが、それさへも讀まなかつたので、先づ第一に是れを手に入れて早速讀んだものである。そして急造ではあるが一と門のメーデー通が出來上つた譯だ。

そのうちに四月の聲を聞くやうになつたが、丁度其月の中頃、正進會と信友會の名を以て都下の各勞働團體へメーデーに關する懇談會の案内状なるものがやつて來た。

正進會、信友會は當時、人も知る如く大杉系を以て自ら任じて居つた左傾的の組合であつたので、何時もそうした新らしい運動や問題の端を發して居つたが、實際運動となると左翼も中間も右翼も無く極めて仲好く同一の歩調で進んで行つたものである。

つまり、左翼の人々は常に右翼の者をも自分達の旗下に引き寄せて行かふと努力して居つたのである。

で、愈々、四月二十日に神田松本亭に於て正進會、信友會主催の下に最も意義ある最初のメーデーに關し、各勞働團體の代表者が會合することとなつたが、其の協議の結果、五月二日、屋外集會の形式にて芝公園に開催すること、メーデー準備委員會を設置し、本部を友愛會本部へ置くこと等を決した。

メーデーは萬國共に五月一日に定つて居ることなので二日にすると云ふことには可成りの異論もあつたが結局最初のメーデーであるから二日の日曜日を當てた方が好いとの意見の者が多數であつた爲め、遂に二日に擧行することとなつたのである。

この事に就て雜誌「勞働運動」（大杉榮主筆）は號外とし

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て當日會場に散布したビラにも、又四月三十日發行の第五號誌上にも共に「五月二日を期し、日本最初のメエ、デーを行ふ事になつた。それが一日に行はれないのは遺憾でめるが、日本の今日の事情では仕方があるまい」と書いてあるが、私等としても誠に遺憾なことであると思つた。

次で、四月二十二日午後六時から正式に第一回メーデー準備委員會を友愛會本部に開催して諸般の議案を決議した。そしてこの名譽ある日本最初のメーデーの司會者を友愛會々長鈴木文治氏に、又、宣言及決議案の起草委員に啓明會下中彌三郎氏、交通勞働原田氏、友愛會麻生久氏等が選ばれたのである。

其後、殆ど連日に亙つて種々の準備をして居つた、會場の如きも警視廳の石井高等課長へ正式に交渉した結果、最初の豫定地であつた芝公園も日比谷公園も不許可となつたが、二十四日に至つて上野公園に變更することになつて決定した。二十八日に第二回の準備委員會を友愛會本部に開いて一切の事項を決定し、越へて五月一日には同じく友愛會に於て各勞働團體の主腦部員會が開かれ、茲に全く一切の準備が完全に備はつたのである。

五月二日！光輝ある日本最初のメーデーの幕は斯くして遂に切り落とされた。

この日は前夜來の雨であつたが、それさへ名殘なく晴れて、新緑の上野の森に流るる風は紅白の幟旗に波を打たせて、新らしき力の主——勞働者の來場を祝福するものゝ如くであつた。

各勞働團體の鬪士等は、今日ぞ、我等勞働者の意氣をして、暴戾、無道、慘虐なる資本家紳士閥の前に示すべし、而して我等勞働者の勝利を祝し、我等が追求する最後の勝利への、不斷に勇敢なる戰鬪を續くることを誓ふものであると世界の兄弟に告げ、勞働者の團結の威力を天下に示すべし、といふ意氣と覺悟とを以て臨んだものである。

示威運動は遺憾ながら、前述の如く形式そのものが、屋外集會といふことになつて居つたので遂に舉行することは出來なかつたが、それでも各參加組合は思ひ思ひに組合の事務所へ參集して會場である上野の山迄、小示威運動を警官に反抗しながら、どうにかかうにか續けて行つたものであつた。

私も、友愛會芝浦支部の一員として、朝早くから友愛會本部へ集まつて、髑髏に血潮を染めた繪を書いて、その上へ「死？自由？」と大書し、其下へ友愛會芝浦支部と書いた支部旗を作つたりしたが、この旗を押立てゝ進んで行くと、早くも芝園橋の上で警官の爲めに押收されて仕舞つた。斯うした、警官との小衝突は各組合にあつても各所に演ぜられたことであるが、集合の時間である十二時には、早くも上野兩大師前の廣場は、緊張した勞働者を以て刻々に滿たされて行つた。

友愛會の勞働歌は高唱される、各勞働團體の會旗は林立する。又當日の標語「失業防止」「治警撤廢」「最低賃銀法の設定」と大書した三流の旗も風に靡いて一種淒慘の氣を帶びた場面が展開された。

其時、早くも會場內には、正進、信友の鬪士が警官と衝突して數名檢束されたといふ報知が傳はり、いやが上にも凄味を加へて行くのみであつたが、やがて時、少し後れて正進、信友の同志諸君は、勞働運動社の猛勇士と共に「〇〇歌」を高らかに唱ひつゝ、其先頭に黑旗を立てゝ入場して來たので滿場の勞働者は、期せずして喊聲を揚げてこれを迎へた。

軈て、司會者鈴木文治氏がその巨軀を演壇に立たせ聲も晴れやかに開會を宣した。勞働者は一齊に敬禮の如き拍手を以て之れを迎へたが、中には當時の勞働者の氣持、其儘に「勞働の神樣」などと叫ぶものもあつた。

斯くして鈴木氏は開口一番「我々の熱烈なる意氣で、斯くの如く昨夜來の雨も晴れ渡つた」と冒頭して勞働祭の由來から米國の狀態を論じたものであつた。

それから次へ次へと、各團體の代表者の演說へと移つたが、代表者の演說では今猶耳底に新らしく[illegible]居るものは、新人會を代表した麻生久氏の演說であつた。

麻生氏の演說は、眞に痛烈を極めたもので、實にこの日の演說中の白眉のものであつたと思ふ。曰く。

「メーデーは、我々勞働者のみの歡の日である。官憲と資本家は勞働者の膏血を絞つた事を認識して恐れ戰く、勞働者は彼等を撃滅せんと歡び勇む」と、この時、群衆は遂に白熱化するに至つたが、代表者の演說の後に友愛會の松岡駒吉氏が登壇して、萬雷の拍手の下に左の宣言を朗讀した。

宣言

吾人は玆に日本最初の勞働祭を舉行す。勞働祭は勞働者の自覺、訓練、團結を表現する祝祭にして、此祝祭の歡喜は勞働者のみ是を知る。吾人は今日、世界萬國の勞働者と共に勞働者階級の解放と萬人の自由とを絕叫す。

吾人は吾國最初の勞働祭に於て、現下の我國勞働者階級が三個の大要求を有することを發表す。第一は治安警察法第十七條の撤廢、第二は失業の防止、第三は最低賃銀法の設定なり。今や恐慌來り資本家の破綻相繼ぎ、勞働者は不合理の犧牲たらんとす。恐慌は資本主義經濟組織の一大特徵也吾人は敢然として其餘波の吾人に及ぶを防衛せざるべからず。

勞働祭を祝せよ而して吾人此日の祝祭を意義あらしめよ。

續いて信友會の野村幸太郞

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

氏が、同じく喝采裡に登壇して左の決議文を朗讀した。

決議

一、吾人は惡法治安警察法第十七條の撤廢を要求す
一、吾人は恐慌來に際し失業の防止を要求す
一、吾人は人間としての生活を保證する最低賃銀法の設定を要求す

これ等の決議は、直に滿場一致を以て可決されたことは勿論であるが、更に信友會は八時間勞働に關し、啓明會は西伯利亞即時撤兵、公費教育の實現等を緊急動議として提出して、これも又滿場一致を以て可決された。

夫れから、三ケ所に自由演壇が設けられ、一般大衆に開放されたので、數十名の勞働者や學生が吾れ先きに登壇して、資本閥に對する鬪憤をもらすと共に、悲憤慷慨、腕を鳴らし肩を張つて官憲の横暴を叫ぶ者もあつた。

この時、この意義深き最初のメーデーに參列して勞働者の歡を倶にせんとして集まる者、實に一萬有餘の多きに上つた。

四時三十分、司會者の閉會の辭の後、勞働歌の合唱が「目醒めよ日本の勞働者。過去の因襲うち破り。世界改造とぐるまで。」……と唱はれ、勞働者の萬歲を三唱して、第一の歷史的メーデーの幕は鎖されたのであつた。

上野の森に響く歌の聲、その聲は今も猶ほ消え去らず、吾がプロレタリアの人々の胸のうちに秘められて居る。そして年と共にその餘音は擴がつて行くのである。

「散會した!」と、同時に私等は或る不安に襲はれた。それは今も昔も變らない官憲の暴壓を想つたからである。

この日の護衛の警官は、初めてのメーデーと云ふことなので、今では想像も及ばぬ程の嚴重なものであつた。それに其頃の官憲は取締る方針といふやうなものがなかつたやうだし、第一取締る者の手心と云つたやうなものが全々解らなかつたので可成り暴壓的に出ることもあつたから、所謂左傾的の分子は誰れしもが、斯うした不安を抱いたものである。私なども可成り過激な演說をしたことなので例の檢束がイの一番に來るものと覺悟を決めて居つた。

そんな譯で、そうした分子は期せずして、互に名を呼び合つて會旗の下に集まり一團となつて却々動き出さなかつたものだ。

今では、メーデーなどでも散會すると、どしどし會旗を捲いて引上げて仕舞ふけれども、その時は散會後も絕對に會旗を捲かないで、却つてこれから示威運動を始めるのだといふやうな氣勢を示したものだつたが、勞働者なども散會後の方が緊張して居るので何にか不穩な事でも始まるのではないかといふやうな形勢であつた。

そして盛んに『○○歌』を高唱したものであつたが、面白い事には、其の當時『○○歌』を知つて居た者は、正信、信友の外には至つて稀であつたので一團となつた人々は、只「ああ○○は近づけり」と云ふ一句だけを繰り返し繰り返し唱つたものだ。

遂に、一團は動き出した。黑旗、赤旗の幾十を先頭に押し立てて、然も、その人々の顏には何れも悲愴なる覺悟の色を浮べつゝ、警備の警官は、それと計りに右往左往に驅け廻る、警視廳の自動車は走る、オートバイは飛ぶ、新聞社の自動車は舞ひ狂ふ、と云ふ混亂を呈した。この騷ぎに警官は、この集團に對して解散を命ずるでもなく、只ガチャガチャと音を立てゝ飛んだり走つたりしながら、集團の動きと共に動いて來るのみであつた。

そこで、私等は各自の會旗をしつかりと握り締め『○○歌』を唱ひ作ら、竹の臺へ出でそれから櫻ケ岡へと進んで來たのである。そして、彼の大石段の上へ出た時には思はず喊聲を揚げた。

それもその筈、その廣い公園前の大廣場には何日もの雜沓にも似ず人一人も居らず世に、みやこ座の前から料亭世界の前まで、眞直ぐに三間ばかりの間を置いて二重の塀が出來て居つたからである、謂ふ迄もなく數百の警官によつて築かれた垣であつて人の子一人拔ける透きもないものである。

警察側の戰鬪準備は斯くの如く備はつて居るのである。何時、亂鬪の巷と化しても市民と混亂しないやうに人拂ひをしたもののやうではあるが、こんな殺氣に滿ちた場合に直面すると勞働者でなくとも血の氣のある者は『やつて仕舞へ!』といふやうな氣持になるのも當然過ぎる程當然なことだ。

それに前には、この暴壓の人垣であり、後には同じく警官の群であるから、それでなくとも鬪志堅き吾々は勢ひ前へ前へと進んで行つた。

勿論、この形勢を見た時には、チョット立ち止まつたが、互に顏を見合せて鬪志堅きことを誓つた。もう斯うなれは身を以てぶつかるより外はない。つまり肉彈戰なのである。『いでや勝負を決せん』といふ氣持になつたのも此の時であるが、或る者は赤旗を高く打ち振り或るものは旗竿を鎗のやうに横にして敵を串刺しにしてやらうと構へて居る。そして我々は山を（大石段）一歩一歩降りて行つた警官隊も靜かに前進して來る。

それ!と云ふ間もなく警戒綫突破の群集と警官隊と一大衝突は演出され、華美を誇る都の街は瞬時にして憤怒、憎惡、怨恨、打つ、蹴る、擲るの修羅場と化した。

この亂鬪の巷は萬世橋まで續いたが、萬世橋に守護して居た警官隊と再び大衝突をしたけれども、先頭に立つた左傾的分子が多數檢束されたの

で群衆は散つて仕舞つた。この騷ぎの爲め上野から萬世橋までの商店は大半硝子戸を降したので、硝子戸を破壞された店が幾軒もあつた。松坂屋の如きも群衆が押し寄せて來た爲め、遂に入口の鐵扉を閉鎖して仕舞つた。

亂闘の跡は、帽子や下駄の山をなして居たといふことであるが、點々として血潮さへ落ちて居たことも事實である。

猶ほ、この小市街戰に於ける闘士の武勇傳例へば鈴木文治氏が一警部に襟を締められたが鈴木氏の下腕によつて返つて擲り飛ばされたと云ふが如きことも面白いから書き度いと思ふけれども、もう既に豫定の紙數の約、倍になつて仕舞つたので、この邊で打切ることとする。この日の檢束者は約百名に達した。

最後に正式に參加した團體の名を記して置く。

正信會、大進會、小石川勞働會、汎勞會、啓明會、自由勞働者組合、工人會、日本機械技工組合、日本勞働組合、全國坑夫組合、工友會、礦山勞働同盟會、信友會、交通勞働組合、友愛會の十五團體であつた。

（昭和三年四月十三日）

メーデーのことども

吉田源藏

メーデーが來た。たしか我が國では今年で第九回目だと思つてゐる。メーデーの日本譯が『勞働祭』であつても、年中行事として單に月並的な、文字通りの『お祭り』騷ぎに終らせたくはないと思ふ。メーデーと云ふ大衆行動は、假りに、其の當面の問題に純粹な經濟的要求があつたとしても、メーデーと云ふ全國的世界的な運動である限り、此の大衆行動は、それの主體と客體とはハッキリと意識せなければならない。況んや全面的な進出期の今日だ、眞に我等の敵をして震撼せしめなければならない。

プロレタリアーの大衆行動としての政治行動は、其の代表的なるのは何と言つても屋外の示威運動である、此のことは、メーデーを以て、檢束ゴッコや旗行列と考へてゐる我が國の左翼共産屋の諸君も異論のないことだと思ふ。私は昨年の進めのメーデー號に、此のことを強調したら、我が國の於ける左翼共産屋諸君から、彼奴はアナーキストだと嗤はれたから、今年は一つメーデーの我が國に於けるエピソードか逸話でも書いて埋め草の責任を果すこととする。

我が國で、メーデーを最も早く紹介したるのは、今の國民新聞の前身の『國民の友』である。（私の聞知した限りに於いては）それは明治二十三年の七月のことである。これは酒井雄三郎と云ふ人が、其の當時パリーに在して居られて『五月一日の社會黨』と云ふ通信を故國に寄せられ、それを『國民の友』が載せたのであつた。

それから明治三十七年の六月十九日の『週刊平民新聞』第三十二號に、メーデーの記事が載つてゐる。『週刊平民新聞』は此の年の五月一日に第二十九號を出してゐるが、これにはメーデーのことは何も書いてゐない。恐らく誰も知らなかつたのであらう。此の年の翌年明治三十八年五月一日には、メーデーの爲めの集合が催されてゐる。これは我が國でのメーデーの集會では嚆矢であらう。これは『直言』の第十三號、及同十四號に載つてゐる、これには『露國のメーデー』やら、其の集會の席上メーデーの由來を說明した石川旭山氏の文章や、『勞働の赤旗』と云ふ此の會合で山口狐劍氏が作つた詩が掲載されてゐる。

此の年明治三十九年五月一日には『五月一日同志茶話會』と云ふのがあつたらしい。これは此の年の『光』第十一號（明治三十九年四月二十日發行）に廣告が出てゐるから多分行つたのであらうと思はれる。それからずつと後大正六年六月發行の『新社會』第十號に『メーデー小集』と云ふ記事がある。これは例の主義者の長老、山崎氏の宅で寄り會つたので高畠、吉川、山川等諸氏が交々メーデーの由來等を說かれたらしい。來會者は三十名以上あつて、此の席上ロシアの社會黨に送る決議文等が提案せられ、分熱が昂つたらしい。此の年のことだ、今の進め社の御大福田氏が、普選請願運動を起したり、警視總監や、主事を詰問して遂々打ち込まれたのは。

それから三年經つた大正九年の五月一日に始めて、本當のメーデーとして、上野の野外集會となつたのである。此の前年大正八年の四月には、山川菊榮女史が『メーデーと八時間勞働の話』と云ふ論文を公表せられ、メーデーも年を追ふて非常に宣傳せられ、大正十二年の第四回メーデーには、水曜會のパンフレット『五月一日』や、インターナショナル社のメーデーに關するリーフレットが、發行せられて、メーデーに關して一般大衆が非常に關心を持つようになつたのである。

メーデーには外國にも、我が國にも隨分と多くの犧牲者が拂はれてゐるが、それは既に周知の事だし、特に日本の其の事に關しては[illegible]國坑夫組合（今はなくなつてゐる）の組合員として、福島縣下の入山炭坑から上京して、メーデーに參加したと云ふことを一つ紹介して筆を擱くことにしよう。

たしか第二回目のメーデーだつたと思つてゐるが、例によつて多數の警官が行列を固めてゐた。アドバータイザーと云ふ外國新聞社の記者が、

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

これを見て『巡査がメーデーに參加した』と云つたことがあつた。此の新聞は翌日の新聞に勞働者の歌つた、例の『あゝ××は近づけり』と云ふ歌を英譯して載せたが、政府はそれを發禁にしたのであつた。

ところが、この新聞社の政府に對する抗議が面白い。『勞働者のメーデーか、巡査のメーデーか見分けの付かぬ位警官が付き添つてゐて、公然と唄はせてゐた歌を、然も一段と調子を下げて、譯載したものを何故に發禁にしたか、新聞に書いて惡い歌なら、何故に彼れだけ警官が付き添つてゐて、公然と勞働者に唄はせたのだ、國際問題にする」と隨分と手強い抗議を行つたそうである。

政府も此の理窟詰めの抗議に、相手が外國新聞だけに大分手古摺つたらしい。相手は外字新聞だ、萬更理窟ばかりではなかつたのだらう――。（終り）

合同協議會の決裂批判

上杉定雄

我等無産階級の上に荒狂ふ支配階級の××は、昨秋の府縣會議員選擧より益々其の猛威を揮ひ、今春の總選擧後に至つては、最も勇敢なる闘爭を成したる、足尾、香川縣において、組合の絶滅を企圖し彼等支配階級の全力を傾注してゐるのである。殊に野田における爭議の如きは、二百數十日を經過せる今日尚解決の曙光だに見ず直訴事件問題すら惹起する迄に至つたのである。斯くの如く資本主義の×××××は、遂に日本共産黨の秘密結社事件を起し、勞農黨の解散を斷行する迄に至つた。斯かる××××が各資本主義國の×××にあつて常に繰返された事は、從來の歴史によつて明かに示されてゐる所である。我國においても、總選擧による無産政黨の進出、無産階級の猛烈なる闘爭力に恐怖せる資本家階級は、長き經濟的搾取と總選擧の××に疲勞せる虚に乘じて無産團體を根扱ぎにせんとして、從來は消極的であつた彼等は、積極的に我々無産階級に挑戰して來つゝあるのである。この資本家階級の攻勢に對して、これ迄お題目的に叫ばれてゐた合同問題もこれを實踐にまで發展せしめねばならない客觀的情勢の下におかれて來た。數回開かれた協議會特に總選擧の結果都市勞働階級に比して、未組織農民の餘りにも無自覺なると、闘爭力の不足なるを痛感した各無産政黨はこれが對策を講ずる事に最も力を割き出したと同時に從來餘り積極的でなかつた合同問題も、單に全日本農民組合と全日本農民組合同盟の合同のみに止まらず、更に進んで各無産農民團體の合同に迄進展すべく具體的な問題にまで展開されて來たのであつた。全國無産農民は總選擧戰における敗戰の憂目によつて、益々其の團結の必要を痛感せる折柄、四月五日開かれる農民團體合同協議會に對しては絶大の期待を持つてゐたのである。然るに是迄非常に順調に運ばれた協議會も四月五日に開かれた合同協議會において全日本農民組合同盟の平野力三氏等によつて「合同による新農民組合は農民黨を組織せなくてはならない」と主張して日本農民黨の中心スローガンである「農民は農民黨へ」を極力強張したために、遂に決裂するのやむなきに至つたのである。資本家と地主階級とは完全なる同盟を結び、全勞農大衆を永久の××たらしめんとして協力しつゝある時にあつて、我々は全勞農大衆の完全なる結合なくしては、到底抵抗する事の出來ない事は、我々の從來の實踐的闘爭を通じて明瞭と認識せる所である。マルクスが教へたばかりでなく、從來の資本主義社會が始まつて以來一切の歴史がこれを事實によつて證明してゐるのである。從つて農民が生活上の苦痛より起つた反抗は一時は嵐の如く強いけれども、彼等の生活が散存的であり、其の生活が孤立的であるために、其の闘爭力を維持する事が出來ない事は、數多の農民蜂起の歴史を見ても明かである。それと同時に支配階級は農民の小ブルチヨア的傾向を利用して、自己の巨大なる豫備軍にせんとしてこれが獲得に努めつゝある。斯くの如く、××的ではあるが其の永續性を缺く處の農民階級、其の小ブルチヨア的な傾向を利用されんとする弱點ある農民階級は都市勞働階級と完全に協力する事によつてのみ、その解放は期し得られるのである。都市[illegible]

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

策に合流した事になり、合同に對する誠意なき態度であるばかりでなく、合同を阻止する裏切り行爲であつたのである。是れに對して日本勞農黨が「各無產農民團體の合同の曉は組合としては何れの政黨にも屬せず組合員のみは何れの政黨にも自由に加入する事を認めるが、然し出來るだけ各政黨の合同の實現を促進すべく努力すべきである」と提案せるは現在の如く各政黨の對立せる時にあつては最も當を得た事である。現在の如き支配階級の彈壓の激しき時において、農民團體の合同は偉大なる無產運動の進展であると共に、これによつて勞農政黨の合同を促進する事が出來るならば、一大飛躍である。我々の解放は、勞働者農民の完全なる結合なくしては期せられないのである。今や第五十五議會を前にして、支配階級の××は極度に加はり、無產政黨の一角は一時的にせよ崩されて了つたのである。我々右翼分裂主義を克服すると同時に一路全線統一に邁進して、勞働者農民の團結の前に支配階級をして屈服せしめなくてはならない。

舊勞農黨の暴露方針は 如何に戰線を攪亂せしか

竹下清一

勞働農民黨は四月十日に支配階級の××によつて解散された。この事は吾々無產階級としては等閑視すべき問題で無く、すべての無產階級が協同して抗議すべき事である。新しき政黨も組織されるであらう。しかし、勞農黨の如く味方の陣營を曝露する事を避けなければならない。さもなければ日本に於ける階級戰を裏切るエセ無產黨となるのである私はこゝに舊勞農黨の曝露方針を列擧する、大山氏の改造社發行の「大衆に呼びかける」の百頁へ、

社會民衆黨、日本農民黨は無產階級陣營内に於ける絕對的——金融資本的勢力　手先であつて民衆の欺瞞的な味方を標榜しつゝ實は彼等の政策を支持してゐることト、日本勞農黨は、組合主義を脫却することが出來ず、到底全民衆の政治的自由の獲得のの爲めに戰ふ能力のないことを暴露しなければならぬ。

(二) 然らば我々は之を如何に暴露すべきか？

イ、敵の候補者と我黨の候補者、敵黨と我黨、專制的支配階級と全被抑壓民衆、之等の對立を黨と黨の對立に集中せしめて暴露しなければならぬ

卽ち敵黨の候補者の個人的醜狀をも大いに暴露すべきであるが、それは單に個人的醜狀の曝露に終らず、彼をかの黨この黨の代表として曝露しなければならぬ。又專制的支配の民衆の之に對する不平不滿を暴露し、然かもブルジョア諸政黨及エセ無產政黨が、この專制的支配に對し何をなし、何をなさんとしてゐるかを暴露し、彼等が完全に專制勢力と抱合し、或は無意識的にその支配を强めつゝあることを暴露しなければならぬ。

ホ、曝露は一時に多くを語らうとせず執拗に繰返さなければならぬ。

へ、曝露は鬪爭の發展、民衆の意識の進展に從つて、一歩一歩計畫的により高度の曝露に發展せしめられねばならぬ。

この暴露方針に從つて他の無產政黨は盡くニセ無產黨であつて、勞農黨だけが眞實の無產政黨であると云つてゐる。而して、これを倒すに如何なる手段をも選ばない事を意味してゐる。

果して、勞働農民黨のみが無產黨であつて他は資本家の走狗であるか之は賢明な讀者に任せるが、吾々から見ると、他の無產政黨や團體を傷つくるに捏造又は誇大の宣傳をして民衆を迷はしめ遂に今日の吾戰線の分裂と對立を來した事は、この勞農黨の曝露方針によるものと云はなくてはならない。

かの二月の總選擧に當つて東京府第五區において日勞黨と協定して加藤君を應援する事になつたのに舊勞農黨の秋和松五郎君は政友會公認畑彌衛門を應援し、後秋和君が選擧費用が出來ると同時に先の協定を破つて加藤君と對立し各所において「ダラ幹加藤を出すな」とビラを撒き又、かの無產者新聞の如きは「秋和が出た以上は加藤は引つこむが當然だ」とは如何な論理によつてかくの如き事は云へたものか、しかし、選擧の結果は秋和に五倍する投票を加藤は得た。しかして亦政友會公認卽ち秋和君の應援した畑は選擧違反によつて拘引され秋和君がこの人から三千餘圓を貰つたといふ事が豫審調書に表はれて來た。

亦、島根縣第一區においては福田狂二君の對立を圖るが爲めに、民政黨の候補者木村小左衛門から金二千圓を貰つた戸谷一雄があつた。その他各地においてかくの如き事はあつた事と思ふ。

之によつて見ると、曝露方針なるものは自己の罪惡を隱蔽せんが爲めに行ふ指令方針と思ふ。

吾等は四六時中彼等が彼等の達者口と筆とを以てウソ計りを民衆に傳へて居る事を知つて居る。所謂ダラ幹と罵られて居る至誠の鬪士は無產者新聞、マルクス主義勞働農民新聞等の彼等の捏造日本共產黨、勞農黨評議會員の中傷をあまりに多く浴びて居るので憤慨もしない樣になつた、われわれは正しい運動をして居る、しかるに彼等はこれを妨害する、民衆に逆宣傳する、恰かも反動團體が吾等を逆宣傳すると同樣に、これを一笑に附することは運動に忠實なるものでない。社會民衆黨が勞働農民黨と行動を共にするのを拒絕したのは至當であつた、

彼の共產黨や勞農黨や評議會は他黨を攻擊する爲めに生まれた、そして自己の裏切行爲を隱蔽し、又は合理化して行く爲めに無產者新聞、マルクス主義、土地勞働農民新聞、勞働新聞、と自由を發行して居る。

あゝ吾が無產者運動を如何に誤りしことよ、あゝ吾等の戰線がいかに破られし事よ。

今反動政府のもとに吾等は結束を固めなくてはならぬ。しかるに勞農黨の暴露方針は常に團結を破りし爲めに此危急存亡の秋に結束は出來ない樣に禍してしまつた。

時間は正しい審判をする。何れが正しかりしか、何れが誤りしか、正か邪か、善か惡か。

敢て賢明なる民衆諸君の判斷に任かし、又舊勞農黨員の正しい批判を望む。

朝鮮共産黨判決書全文

大韓○○萬歳と題する（中略）朝鮮人教育は朝鮮人本位にせよと題し（此間一百八十二字抹殺）、日本人地主に小作料を納付するな、在獄×××を釋放せよ云々、等不穩文書の原稿を作成し被告朴來源は被告權五窩より其印刷資金を受け被告閔昌植楊在植白明天等と共に印刷機大小二基活字用紙其他必要品（押收第七九二號の第九號乃至一六號第二五號は其一部）を購入準備したる後被告朴來源閔昌植楊在植の三名は同月十七日以降被告李用宰は同月廿一日以後皆同月廿四日まで同府安山洞三十六番地被告白明天の借家に於て其翌廿五日より同月下旬頃までの間に被告閔昌植方に於て同被告等四名が共同して小型印刷機其他右必要品（前記第九號乃至一五號は其一部第一四號は活字を溶解したるもの）を使用して自意で前掲檄告文一万二千枚（押收第七九二號の一、二號）大韓○○萬歳二萬枚（同三號）（以上の二種は白明天の借家にて印刷せるもの）朝鮮人教育は朝鮮人本位にせよといふ分と並に産業は朝鮮人本位にせよといふ分各六千枚（同第四、五號）大韓○○運動者よ團結せよといふ分八千枚（同第六號）を各印刷して被告白明天の彫刻したる大韓獨立黨の印章を同檄文の約半數に押捺して其不穩文書の撒布方法として同文書と金丹治の送付したる哭して服する民衆に檄すと題する（此間九十八字抹殺）の不穩文書押收第七九二號の第二四號とを合せて此を折半し其半は全朝鮮を鐵道線に據つて四分し被告朴來源を湖南線京釜線の中心地大田に被告閔昌植を京義線の中心地沙里院又は平壤並に京元線の中心地元山に派遣して通行其他の官衙青年團體に對して開闢新女性新民等の各雜誌內に若干枚づゝ挿入して郵送配付するやうに爲し其殘餘の一半中若干枚は被告朴來源閔昌植李用宰楊在植等をして商店郵便に擬し總督府裁判所京畿道廳其他京城府內の官衙に郵送頒布せんと爲し其他の大半は同年六月十日の國葬に際して被告權五窩朴來源閔昌植李用宰楊在植が學生洋襪職工印刷職工等を使嗾して共に葬列が通過する沿道にて群衆中に撒布し一齊に朝鮮○○萬歳を高唱することに定め以て治安を妨害せんとし

被告白明天は被告朴來源等が朝鮮○○運動を此に關する不穩文書を印刷撒布する情を悉知しながら同被告の命に從つて同年五月十六日頃京城府內にて右印刷に使用するインキ鑵インテル十本及ゴム板一枚を買受し續いて同月二十二、三日頃前顯借家にて同被告の要請に應じて大韓臨時政府の印章（押收第七九二號の第一八號）及大韓獨立黨の印章各一個を彫刻交付し以て同被告等の前示○○運動及印刷の犯行を幇助し

（二）被告金恒俊は前掲哭して服する民衆に檄すと題する不穩文書が李王殿下の國葬に際して朝鮮○○運動を爲す目的にて頒布する情を知りながら大正十五年五月廿七日頃支那安東縣舊市街にて金丹治の使者金必成より被告洪眞裕に送付するやう委託を受け此を受取り直時安東縣堀割南通九丁目一番地三成運送店に赴き古箪笥內に隱匿し其店員姜延元に託して引越荷物であると詐稱して其發覺を隱したる後更に先づ平安北道宣川郡宣川區內丸三運送店扱にて發送せしめ其後同月三十日頃同人を介して同運送店より京城司運送店扱にて轉送せしめ同年○月三日自身で其貨物引換證を携へて上京し京城府水標町朝鮮日報社に到り被告洪眞裕に右發荷の顛末を告げたる後其引換證を交付して被告洪眞裕は其情を知りつゝ被告金恒俊より同引換證を受領し卽日同府長沙洞被告權五窩方に赴き此を同人に交付し以て皆同被告の前示○○運動の犯行を幇助した。

しかして被告金尙珠、陳秉基、權五窩、廉昌烈、朴來源朴珉英、李知鐸、閔昌植、金濱械、李炳立、盧相烈、崔安變、黄守龍の前顯治安維持法違反の點被告權五窩の不穩文書の著作被告朴來源、楊在植閔昌植、李用宰の同文書の印刷並に被告白明天の幇助行爲は皆犯意繼續して行はれたものにして被告金在鳳は大正十年六月三日京城地方法院にて大正八年制令第七號違反罪に因り懲役六ケ月に處され被告金科全は大正十二年十一月五日同法院にて傷害脅迫罪に因り懲役五ケ月の處分を受けて同十三年一月二十六日勅令第一○號に依り懲役四月九日に減刑され被告俞鎭熙は大正十二年一月十六日同法院にて大正八年制令第七號違反及新聞紙法違反罪に因り懲役一年六月の處分を受け同十三年一月二十六日勅令第一○號に依り懲役一年三月五日に減刑され被告陳秉基は大正十二年十二月二十日平壤覆審法院にて大正八年制令第七號違反罪に因り懲役一年の處分を受け同十三年一月二十六日勅令第一○號に依り懲役九月に減刑され被告姜達永は大正八年九月六日大邱覆審法院にて出版物法及保安法違反罪に因り懲役三年の處分を受け大正九年勅令第一二○號に依り懲役一年六月に減刑され被告李鳳洙（東亞日報記者一名李符）は大正十一年七月二十七日平壤覆審法院にて阿片取締令違反罪に因り懲役六月に被告魚秀甲は同年二月二十七日京城覆審法院にて大正八年制令第七號違反罪に因り懲役一年に被告林元根は同十月二十八日平壤覆

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

審法院にて大正八年制令第七號違反罪に因り懲役一年六月に各々處分を受け被告柳淵和は大正八年八月二十八日高等法院にて出版法及保安法違反罪に因り懲役三年の處分を受け同九年四月二十八日勅令第一二〇號に依り懲役一年六月に減刑され被告都容浩は大正十二年八月二日新義州地方法院にて大正八年制令第七號違反罪に因り懲役一年の處分を受け同十三年勅令第一〇號に依り懲役九月に減刑され皆其當時各其刑の執行を終了し被告張順明、申哲洙は大正十四年六月八日京城地方法院にて保安法違反罪に因り各懲役八月に被告吳洪健は同年七月三十日咸興地方法院にて傷害罪に因り罰金二十圓に同年十一月二十八日同法院にて出版法違反罪に因り罰金二十圓に被告姜均煥は同年九月十九日京城地方法院にて脅迫罪に因りて罰金三十圓に被告洪悳裕は大正十五年一月十四日同法院にて名譽毀損罪に因り罰金五十圓に被告李祚參は同年二月六日大邱地方法院安東支廳にて名譽毀損罪に因り罰金五十圓に被告李炳立は昭和二年四月一日京城覆審法院にて大正八年制令第〇號及出版法違反罪に因り懲役一年六月に各々處分を受けた。

證據に就て按ずるに

判示第一の（一）事實中被告金在鳳は金燦と共謀斡旋したるまでの點は司法警察官の被疑者金在鳳第一回訊問調書及越尾豫審判事の被告金在鳳第一回訊問調書の各供述記載と五井豫審判事の被告金科全訊問調書に朝鮮共產黨の發起人は金在鳳、金燦、曺奉岩の三名なる旨の供述記載があるが綜合して認定せられ被告鄭雲海及崔元澤以外が判示日時場所に集合して判示方法（金燦の命名を除く）として朝鮮共產黨を組織して役員の銓衡委員三名を選擧し判示中央執行委員三員を選擧して判示中央執行委員七名及檢查委員三名を選任せしめたる事は五井豫審判事の金在鳳第一回訊問調書に同一趣旨の供述記載があり越尾豫審判事の被告金若水（金科全）第一回訊問調書五井豫審判事の被告俞鎭熙、金尚珠、陳秉基、獨孤佺に對する各訊問調書に各々自已等の朝鮮共產黨を組織したる旨の供述記載があるに依つて被告鄭雲海が同共產黨の組織に參加したる事は五井豫審判事の被告洪悳裕第一回訊問調書並に司法警察官の被疑者尹德炳第一回訊問調書に皆同一趣旨の供述記載があるに依りて崔元澤も亦同黨の組織に關與したる事は同尹德炳訊問調書及越尾豫審判事の被告金尚珠第四回訊問調書中各其旨の供述記載があるに依りて銓衡委員が判示三名であること及金燦の發意で朝鮮共產黨と命名したることならびに中央執行委員に同黨の綱領規約等の制定を委託したる事は被告俞鎭熙訊問調書中同旨の供述記載があるに依りて此を認むるに足り五井判事の被告金在鳳第一回訊問調書の供述記載に依ると判示第二回中央執行委員會開催の月日の點を除きたる外判示の如き內容の委員會を二回開催したる事明白にして第二回委員會が第一回委員會の約一ケ月後に開催されたるは被告金在鳳の當公廷にて其旨の自陳に依り認む（大正十四年四月二十日京城府內所謂赤旗事件勃發し已に同志者の一部が逮捕され警察官憲にて嚴重共犯人の檢擧に努力してゐたるため其危險を犯してまでも被告金科全、兪鎭熙等の辯解したる如く同月十八日の第一回委員會の數日後第二回委員會を開催したるものとは認め難し判示の如く約一ケ月後に開催したるものと確信する）且五井豫審判事の被告姜達永第一回訊問調書に自已は金在鳳より朝鮮共產黨が露國の國際共產黨と連絡を取つて居る旨の供述記載とを綜合すると趙東祜に判示任務を擔當せしめたるを認められ朝鮮共產黨が判示目的下に組織され其組織者が之を熟知して居りたるは五井豫審判事の被告金在鳳（第一、第三回）同金尚珠、同洪悳裕（第一回）に對する各訊問調書の供述記載に依りて認め被告獨孤佺が判示通信連絡をしたることは被告金在鳳の當公廷にて供述及五井豫審判事の同被告第一回訊問調書の供述記載に依りて被告權五卨が判示の如く入黨したる事は同官の同被告第二回訊問調書に場所の點を除く外同一趣旨の供述記載したるに依り被告李準泰も亦判示の如く入黨したるは同被告の當公廷にて自已は金燦の勸誘で朝鮮共產黨に加入したる旨の自供及檢事の被疑者李準泰第二回訊問調書の供述記載に依りて被告姜達永、李鳳洙（一名李哲）が洪南杓、金綴洙等と共に少く共大正十四年十二月十日頃以前に朝鮮共產黨に加入してゐたることは五井豫審判事の被告金在鳳第一回訊問調書の供述記載に依りて被告姜達永、李鳳洙（一名李哲）が入黨する際其情を知りつゝありたるは同官の被告姜達永第五回、同李準泰第三回、同權五卨第五回訊問調書の各供述記載に依りて此を認定するに足り被告金在鳳が判示の如く被告姜達永、李準泰に對して朝鮮共產黨の發展に努力するを激勵したることは同官金在鳳第一回訊問調書の供述記載と同官の被告姜達永第二回、同李準泰第一回訊問調書の各供述記載（月日場所の點を除く）とに依りて被告姜達永李準泰の兩名が判示の如き同黨の組織發展を協議し被告李鳳洙（一名李哲）及洪南杓金綴洙を說得して一同中央執行委員になつた事は當公廷にて被告李準泰の自已等は金在鳳等の組織したる朝鮮共產黨を引繼したるもので、新に創設せるものにあらず

又自分が警察署以來李鳳洙であると申立したる者は只今指示されたる東亞日報社の李鳳洙と相違なき旨、被告姜達永の只今指示したる東亞日報社の記者李鳳洙は中央執行委員に相違なき旨の各供述と五

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

井豫寀判事の被告李準泰第一回第三回訊問調書の各供述記載とに依りて各共認定することが出來押收第九七八號の第二、三、四號の會錄日誌が被告姜達永の記載したるもので共記載事項が同第五三號の譯文と相違なきは同官の同被告第二回訊問調書に同一趣旨の供述記載があるに依りて明白で、大正十五年一月下旬頃以來同年五月中旬頃までに判示の如く中央執行委員會を開催したる事は同官の被告李準泰第一回訊問調書の供述記載と同第二號同第五三號の會錄の記載とに依りて被告姜達永、李準泰、李鳳洙（一名李哲）が洪南杓、金綴洙等と中央執行委員會を開き判示の如く部署を改定し各自の分擔を定めたるは同官の被告姜達永第二回訊問調書に同趣旨の供述記載があるに依りて被告金致琯が判示の如く入黨したるものとならびに被告金致琯、權五卨が中央執行委員になり各自部署を擔任したるは五井豫寀判事の被告金致琯第一回（入黨月日を除く）同權五卨第二回訊問調書の各供述記載と被告李準泰の當公廷にて自己は被告權五卨、金致琯を中央幹部に推薦したる旨の供述及前示第二號第五三號の會錄の記載とを綜合して各共認定することとが出來被告洪眞裕が具然欽と共に檢査委員になりたるは同官の被告李準泰第一回姜達永第二回訊問調書の各供述記載に依り京城府内に判示の如き「ヤチェーカ」「ブラックチ」を設置して京城府の執行委員を選任したる事は同官の被告洪眞裕第一回同姜達永第二回訊問調書に各同一趣旨の供述記載があると前掲第二三、五三號の會錄日誌と記載に依りて全羅南道及慶尙南道に執行委員の選任並に海外部の設置判示の如き事は同官の被告姜達永第二回同李準泰第一回訊問調書の各供述記載と右第二、四、五三號押收第九七八號の第一一、一二、四〇號の各文書の記載とに依りて此を認むるに充分であり豫算の編成並に黨則の作成に對し判示協定がありたるは同官の被告姜達永第二回訊問調書に同旨の供述記載あるに依り被告姜達永、李準泰が判示の如く豫算に關する書類を作成して國際共産黨に送付したる事は同官の被告姜達永第二、三回、李準泰第二回訊問調書の各供述記載及同第二、五三號、押收第九七八號の第八、四四號の文書の各記載に依りて被告權五卨、李鳳洙（一名李哲）が判示方法にて朝鮮共産黨則は草案である旨の自供及同官の被告權五卨第二回訊問調書の供述記載に依りて被告姜達永、李準泰等が專ら黨員の募集に盡力したる事は被告李準泰の當公廷にての其旨の自供に依りて朝鮮共産黨が高麗共産青年會と連絡提携を取りたる事は越尾豫寀判事の被告權五卨第三回檢事の被疑者姜達永第二回訊問調書の各供述記載に依りて各此を認定することが出來るが故に叙上を綜合すれば判示第一の（一）の犯行を認定するに充分である。

判示第一の（二）事實中被告廉昌烈の知情以外の判示事實は五井豫寀判事の同被告第一回訊問調書に「ヤチェーカ」「ブラックチ」へ配屬の點を除く外に同一趣旨の供述記載があること、同官の被告姜達永第二回訊問調書の供述記載及前顯押收第九七八號の第二、三、五三號の會錄日誌の各記載とに依りて其知情の點は同官の被告廉昌烈第二回同姜達永第五回同權五卨第五回訊問調書の各供述記載に依りて各々認定するに足り被告朴來源の判示の如く（知情は除く）入黨の事は同被告の當公廷にての其旨の自供に依りて認むるに足り同官の同被告第二回同姜達永第二回訊問調書の各供述記載に依ると被告朴來源の判示「ヤチェーカ」「ブラックチ」に屬して其所屬「ヤチエーカ」の責任者であつたことが明白なることを其知情の點は同官の被告朴來源第一、二回同被告權五卨第五回訊問調書の各供述記載に依りて此を認め被告朴珉英の判示入黨の點は同官の同被告第一回調書に同旨の供述記載があるに依りて同被告の知情並に判示「ヤチェーカ」配屬の點は同官の同被告第一、二回訊問調書の各供述記載に依りて各々認定され被告李智鐸に對する知情を除く判示事實は同官の同被告第一回訊問調書に其旨の供述記載があるに依りて其知情の點は檢事の被疑者李智鐸訊問調書及五井豫寀判事の被告李智鐸第二回同權五卨第五回訊問調査の各供述記載に依りて各々此を認め得

被告閔昌植の判示入黨の點を五井豫寀判事に同被告第一回訊問調書に同旨の供述記載があるに依り其知情の點は同訊問調書及同官の被告權五卨第五回訊問調書の各供述に依り被告閔昌植の判示「ヤチェーカ」に屬し其責任者であるは同官の同被告第二回訊問調書及檢事の被疑者閔昌植第二回訊問調書の各供述記載に依りて又同被告が京城府の幹部になつたことは五井豫寀判事の被告洪眞裕第一回同姜達永第二回訊問調書に同一趣旨の各供述記載あるに依り悉く之を認むるに充分にして被告金環載に對する判示事實は同官の同被告第一回訊問調書中自己は洪眞裕方にて同人より××の××を××し私有財産制限を否認する目的にて組織された朝鮮共産黨に加入せよと勸誘を受けたる旨の供述記載あると、同官の被告姜達永第二回同權五卨第二回同洪眞裕第一回訊問調書中被告金環載も朝鮮共産黨である旨の各供述記載あると、前示第三號の日誌に大正十五年三月二十四日被告金環載の入黨を決定したる旨の記載あるを綜合して此を認むるに足り被告朴寀弘の判示日時場所にて被告姜達永の勸誘を受けて朝鮮共産黨に加盟する事は司法警察官の被疑者朴寀弘訊問調書に同旨の供述記載あるに依り且つ被告朴寀弘の判示の如く道執

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

行委員になつた事五井豫審判事の被告姜達永第二回李準泰第一回訊問調書の各供述記載と右第三號、五三號の日誌に其旨の記載あるに依り各々之を認められ被告金正奎が判示日時場所にて權元譯の勸誘を受けて朝鮮共產黨に加入する事は同官の同被告第一回訊問調書に同一趣旨の供述記載があるに依り同被告が判示の如く日本部の責任秘書になつたことは被告金準泰の當公廷にての其旨の自供と同第三號、五三號の日誌に同趣旨に記載あるに依り共知情の點は同官の被告金正奎第一、二回同權五窩第五回訊問調書の各供述記載に依りて各々此を認め、被告朴一乗の判示日時場所にて金燦の勸誘を受け同黨に加入したる事は司法警察官事務取扱の被疑者朴一乗第二回訊問調書中同旨の供述記載あると五井豫審判事の被告姜達永第二回、同李準泰第四、同全政琯第二回訊問調書中指被告朴一乗の朝鮮共產黨員である旨の供述記載あるに依り、被告朴一乗の判示の如く「ヤチエーカ」「ブラックチ」に屬し「ヤチエーカ」の責任者である事は同官の同被告第一回、同全政琯第三回、同姜達永第二回訊問調書の各供述記載及前記第二、三、五三號の會錄日誌の各記載に依り共知情の點は檢事の被疑者朴一乗第二回五井豫審判事の被告權五窩第五回訊問調書の各供述記載に依り皆此を認め被告金昌俊の判示日時場所にて被告李準泰の勸誘を受けて朝鮮共產黨に入黨したる事は五井豫審判事の被告金昌俊第一回訊問調書に共旨の供述記載あるに依りて、（以下次號）

野田爭議解決す

勃發以來二百十八日前代未聞の大爭議として一世をせう動した野田爭議は遂に四月十九日解決した。この爭議に費した損害は會社側約二百万圓爭議團側、約五十万圓の多きに上り、爭議團約一千三百人、家族總數約六千人、盟休兒童約六百五十名父子相扶け、夫婦相警めての實に悲慘極まる大爭議であつた。

この罷業の根本原因は、

一、會社の一貫せる組合破壞の精神、（イ）昔の如き搾取の擴大を夢み、（ロ）勞働組合に對する封建的反感、二、政友會內閣の出現によつて[illegible]動的助力を得た事、三、組合の實力無しと認識したる事。この三は昭和二年四月十日待遇改善の要求を提出したが會社が拒絕したので同年五月一日より罷業に入る筈であつたが、時恰かも財界の混亂の爲め之に基く社會的不安と、平和的解決に導く爲め無期限保留となつた。この組合の節制ある態度を目して、會社は實力なしと見るに至つたのである。

而して會社の挑戰的態度は七月に至つて丸三運送店問題によつて積極的となつた。卽ち丸本運送店を創立して、組合員たる丸三の從業員を失業者若しくも半失業の狀態に陷し入れた。こゝにおいて我慢が出來なくなり遂に九月十六日より罷業となつた。

罷業後における會社の態度は暴力團を入れて組合に挑戰し、或は政友內閣の反動的方針に依賴して一擧に崩壞せしめんとしたが、組合は總同盟の中堅相對峙して戰ひ、野田の町は悲慘なる鬪爭の巷となつて了つた。會社はあく迄頑强なる態度を持し三回にわたつて一千數百名を解雇するに至つた。かくして遂に直訴事件迄おこすに至り、解決希望の曙光漸く動き、協調會の運動となり、遂に解決するに至つたのである。

解決案の大要は左の通り

一、三百四十二名を十日以內に復職せしむる事

一、會社より解雇手當として三十九萬圓、爭議中の賃銀並に爭議費用として七萬圓計四十五萬圓を提供する事

これによつて見ると七百名の失業者を出し、屈辱的解決と見られぬ事もない。しかしこの點に就いては、未だ問題をつまびらかに知らぬし、紙數が許さない。たゞ總同盟の聲明書大要を記しておく。いづれ機會あらば論評するであらう。

聲明書大要

二百十九日間の同志の苦鬪は顧みて感慨無量である、我等が勞働者團結權を達成し得ざるのみならず同志七百餘名の失業者を救ひ得ずその鬪爭を收めざるを得ざるに至つた事は悲憤に堪へざる所である、しかしこの大爭議を通じ全日本の支配階級、資本家階級に敎訓を與へ得た事を確信する、卽ち堅實な指導精神の下に組織訓練された勞働組合の破壞が、異狀な勞働者の鬪爭力を激發させ資本家にばく大な無益な犧牲を要求する事である本爭議により勞働組合の堅實な發達は、經濟的基礎と嚴格な統制力と相待つて行はれるとの信念を强めた、この苦き尊き經驗が日本の全勞働運動に良き影響を與へる事を確信し、野田の同志の固い結束、總同盟各組合、友誼各組合、一般人士の協力後援に深く感謝する

街頭辻斬帳

戰鬪的政黨？は解散を命ぜられる正道の政黨は大雄飛？　保守的政黨は策動？なにしても混亂の態だ!!　無產有產共文句ゴタゴタで花によひ居るのも奇妙だ

議會政黨でないと稱する者稱せざる者共に代議士と云ふ病氣に取りつかれてヨイヨイさんになつて居る。お氣の毒は無產者だ今の樣な時季を見誤り自己をうぬぼれる野郎共卽ち現在の指導者達とそれを緣引くインテリゲンチャと云ふ資本主義最後の崩壞期に必然的に生れし寄生虫を反動主義軍閥貴族資本家共と十把一からげにして秋水一閃ブッタ斬られればならぬ。

普選第一の議會が始まる有產共の木葉代議士無產黨の八名に引ずり廻されて人間並に强腹を見せてゐたがドタン場皆不解散說贊成結極金故と定つた。

得體の知れぬ代議士田淵と無產派の西尾の回答『お前に革命派か』『俺はそんな事はキライ現實派だ』『そうすると現ナマ式か』て

搾取行刑政策と自由勞働者の失業關係（二）

加藤利藏

一　刑務作業の現狀

一九二七年十月司法省に招集された全國刑務所長會同の席に臨んだ主管大臣原法相は其の席において述べた訓示の中に「刑務作業の目的は勤勉の良習を養はしむると同時に彼等に釋放後の基礎を授け累犯に陷る素因を除くにある――卽ち、釋放後激烈なる競爭場裡に生活し得る勞働能力を涵養せしむるにある」云々と述べてゐる（刑政、昭和二年十一月號參照）

本文の初めに前提として極く簡略に揭げておいた如く、受刑者の八〇%が勞働者であるが故に（就中自由勞働者）そしてそれらの人々の殆どが犯行の原因を「失業」若くは「就職難」といふやうな不安に發してゐるといふ統計上の理由に基いて直接行刑の局に當つてゐる刑務所長に對して其の會合の席上右に述べた如き訓示をなせるものと思はれる――さう解しておかう。

そんなら原法相の所謂受刑者に釋放後の基礎をさづけ累犯に陷入る素因を除くために――或は彼等が釋放後激烈なる競爭場裡に生活し得る勞働能力を涵養せしむるために――といふ刑務作業とはどんな機構の下に受刑者の日常を律してゐるか、そしてそれが自由勞働者問題の焦點となつてゐる失業問題と、どんな關係に結ばれてゐるか、以下これらの問題を中心に行刑政策の現狀を檢討する事にする。

二

現在受刑者に課しつゝある作業時間は一年を通じ一人當り一日十二時間三十分の割りになつてゐる。右の時間制は大正十年十一月一日より改定實施せるものであつて、其の以前卽ち大正十年十月三十一日までは次の如き時間割であつた。

監獄法施行規則

（明治四一年六月十六日司法省令第十八號）

第五章　作業

第五十八條　在監者ノ作業時間ヘ左ノ如シ

一月　十二月	七時間
二月　十一月	八時間
三月　九月　十月	九時間
四月　五月　八月	十時間
六月　七月	十一時間

右表の平均をとると一人當り一日の作業時間は一年を通じ九時間六分の割りになつてゐる。故に新時間制に由る受刑者への勞役負擔は、新時間制のそれと比較するときは一年を通じ一人當り一日三時間六分といふ長時間勞役の加重を強請してゐる譯である。

そして其の當時、卽ち大正十年十月末の全國在監人員の總數は四七九六〇人であつて

内譯

懲役刑	四四九二二人
刑事被告人・	二八二九人
勞役留置者	一八八人
乳兒	一四人

（官報大正十年十月二十九日參照）

然して大正十年度以降昭和二年度に至るまでの每年度の平均受刑者率には多少の高低はあつたが、定期的に發表せる當該官廳の統計表を通覽して見て大正十年度より昭和二年度にいたる八年間の平均就役受刑者數を大體四万五千人位と見ることが出來る。

右表の内、刑事被告人及乳兒の不就役者を除き更に幾%かの病者及び休養者を控除する殘數の就役者を四万五千人と見て、これを時間に換算するときは、全國の刑務所において每月十五万三千時間だけ舊時間制の當時より新時間制に由る現在の刑務作業時間が延長されてゐるといふ事實が確められる譯である。

右に述べた如く受刑者一人に對し一日三時間二十幾分の勞役時間を延長せる理由として其の當時關係各筋の機關を通じて主務官廳たる司法省においては省令若くは局令（當時の監獄局）若くは大臣の訓示（當時の司法大臣は高橋是清内閣の閣僚として反動の係名？高かりし大木遠吉）或は局長の訓示（當時の監獄局長は之また反動と官僚の名において頗る有名な現警保局長山岡万之助）其の他幾樣かの釋明として一般社會に闡明せる論旨を要約すると、昨年、卽ち一九二七年十月全國刑務所長會同の席に臨んで訓示せる原法相の所謂「受刑者に釋放後の基礎を授け累犯に陷る素因を除くためと、受刑者が釋放後激烈なる競爭場裡に生活し得る勞働能力を涵養せしむるため」云々の訓示の要旨と同樣な理由に論結してゐる。

然しながら右に述べた「受刑者の將來を考慮してやるために」のみ延長された改定時間制ではない――といふ別箇の理由――重大な理由が陰謀の内に企畫されてゐた――現在も尙さうである。

たしか大正十四年の頃の臨時議會において時の總理大臣加藤高明がその施政方針演說の中に特に「刑務所方面の作業能率の増進を圖り國庫收益の率を昂め」云々と述べてゐる項目や、其の以前、歐洲大戰初期の頃より全國の刑務所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

において一齊に作業能率の増進を圖るためには（疲憊しきつた囚人の心身より搾取する膏血――文字通り膏血の量を増すためには）鋭意手段の何たるを選ばず或る刑務所の如きは特に作業督勵係りと呼ぶ職名を付した看守長若くは看守部長を各工場に配置して壓制と兇暴とを職掌と考へてゐる無智にして倒錯頭腦の持主である、戒護看守の威嚇手段と相俟つて、營養不良と過勞のために喪家の狗の如く瘠々悔々然たる受刑者の心身を鞭撻して專心搾取量の増大を圖る等。所謂「作業奬勵の手段と稱するそれらの例證を揭げたなら枚擧に遑がないだらう。」

（作業能率の増進を目的とする「奬勵手段の最も陰險にして巧妙な代表的二三の例を後段において詳しく紹介する）

作業の種類

刑務作業は「官司業」と「依託業」との二種に大體區別されてゐる。

官司業は原料の購入、生産加工、製品の販路等一切官廳において直接經理するものであつて、陸海軍需品中の被服類、靴、鞄、背嚢等の修理、味噌醬油類の醸造、蔬菜類の漬物製造、或は官衙の修繕に要する工員並に手傳夫等の使役に受刑者を充當するもの、或は刑務所における掃夫、炊夫、看病夫、農業に就事する耕耘夫、事務補助夫等其他官營の工途に受刑者を使役するもの等がこの官司業中に含まれる（略して官業とも呼んでゐる。）

委託業は、民間業者より加工若くに製産を行刑當路者に委託するものと、所定法規の範圍において民業者側より刑務所に原料を搬入し、技術上の監督者並に指導者を派し（授業師と呼んでゐる）て廳外において相當業に就事する勞働者の勞銀額の三〇%乃至五〇%程度の請負工錢を納入して所要工途に受刑者を使役するものを指す（請負業とも呼んでゐる。）

この委託業或は請負業中に含まれる業種は極めて廣汎に亘つて居り、四五の特殊な業種を除く以外の、加工、製産の業種が殆ど含まれてをり、殊にこの委託業中最も多數の受刑者を使用してゐるのは機織業であつて就中久留米絣の如きは全國の刑務所において數千の受刑者を使役してゐる

然して右の官司業並に委託業の範圍及區別並にそれに對する方針として、それが監督權を管掌する現司法省行刑局長松井和義は、昭和二年四月巣鴨刑務所に開催せる全國刑務所作業品評會に臨んだ際『由來刑務所作業は官業本位を主旨とし、その餘力を以て民間よりの委託、請負の業務に充當してゐる』云々と所見を述べてゐるが。然し事實は刑務作業の主旨とか方針とかいふ表看板とは反對に、委託請負の餘力を以て官業に充當してゐるとも見ることの出來る刑務作業の現狀をいかにせん。

然しながら、刑務作業の進展に對しては、さなきだに民業壓迫の聲の高い現況に鑑み、嘗ては全國の印刷業者を憤激せしめた前例もある事故それが監督官である松井局長は刑務作業とは餘り緣の少い――といふよりも、其の眞相を知らぬ民間業者の多數集會せる場所において、所謂民業壓迫の非難を避けるために述べた一場の外交的辭令ででもあつたのだらう――とでも解しておかう。（未完）

共産黨事件とスパイの噂

共産黨事件にスパイの噂がある福本和夫、佐野學、三田村四郎であると云はれて居る、又勞農系の者は渡邊政之助であるとも云つて居る。

事實どうであるか知らぬが尖銳な理論家程怪しいのはロシヤの革命前にいくらも例がある、二十年もスパイをして居るのに黨員は神の如く崇拜して居つたしかし之れが知れるとスパイは獨逸へ逃げたが黨員は彼を追つて彼を懲した。

今度の事件もスパイが居らぬとは云へぬ、檢擧前に外國に逃げるのはどうも怪しまざるを得ぬ、○○の如きは十二年の共産黨事件を彼の手で曝露した。それは無意識的であつたとは云つて居るが其時もロシヤに逃げ込んだ。彼は當時の閣員後藤新平の婿の弟だから檢擧を知りて逃げたと云はれて居る、今回も○○○が政友會入りをした後これを知りて逃がしてもらつたとも云はれて居る、○○○○にせよ○○にせよ、忍術を知らないでは外國に高飛は出來まい、それが巧みに逃げて居るから不思議である、こんな噂は嘘であつてほしい。○○○　○○　○○○の事だ。

何れにせよ神ならぬ吾々には眞相はわからぬが火のない所に烟は起らぬ。

センエイな奴はセンエイなスパイだ、恐ろしい事だ。

進め社でこの噂をすると逆宣傳だと云ふ奴があつたら、それもスパイの片割だ、熱烈な闘士を牢獄に投ずるスパイは叩き出せ。

目をまわした關西の田舎闘士

組合同盟の大會に上京した一人の男、大會の議事堂をキョロキョロ見まわしていたが傍聽席に陣取つてゐた花の如き××××××？を眺めて「ほほうあれが××婦人同盟の輝ける花形連中か、世の中つて妙なもんだなMOGAつてのは銀座をチョコレートを白い手で引きのばし乍ら走りまわるのかと思つたら無産階級とか婦人解放とかドエらい大きな望みを抱いてゐなさるそうな無産階級解放運動もこんなお孃さんが氣まぐれに飛びこんで來る樣になつたのか、なあ、ても恐ろしい世の中じやて」と嘆息やら憤慨やら。

大山さんに苦情

近頃は一寸少さくなつたが、舊勞農黨が進め社の近くへ引越した當時には、毎日十人乃至二十人の人が間違へて飛込んで來た。あはてゝ逃げ出す連中も氣の毒だが、「進め」はその爲め、下らぬ時間を費したので大山さんに損害を賠償して貰はうと云ふので、被害程度の見積り中

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

全土戰報

田中内閣は無産民衆の敵
全土に倒閣の烽火をあげろ

自由民權の爲め、かつては藩閥政府と戰つた歴史をもつてゐる政友會は、もはや藩閥も何もかも、すべて無産階級の敵になるものはどれもこれもよせ集め、先の總選擧においては内相喜三郎をして「議會中心主義」は歐米流であり、危險だと、立黨の精神も糞喰へで、無産階級の進出を防止した事は何人も知つてゐる。田中内閣は、例へ議會でやぶれても辭職はしないなど〻暴言し、暗に解散をほのめかして、中立議員や灰色なフラフラ議員をおどしつけてゐる。

特別議會をどうしてでも切抜け樣としてゐるのだ。そして、一日でも長く生き長らえ、大××の××をめぐらさんとしてゐる。吾々無産階級は田中内閣の存在をもはや許容しないのだ。見よ、田中内閣の手によつて、××××が惡用され、立入禁止によつてどれだけ農民が飢餓の淵を彷徨したか。暴力行爲取締法によつて、どれだけ社會運動に犠牲者を出したか。選擧干涉によつて、農民は自殺した例さへあるではないか。選擧の公正がどこにあつたか。吾々には一日の存在をも許さないのだ。

無産黨獨自の不信任案を特別議會において提出して打倒しようと主張した人があるか、その不利なるを知つて、それは各黨の共同委員會で否決された、何故か。それは、獨自の不信任案は、現在の政民兩黨伯仲の形勢にあつては、いたづらに不信任案の力を分散せしめ、實際において、政府を援助する事になるからであつた。そこで日勞黨案の

反政府勢力を糾合して、打倒すべき事に決定された。即ち、民政黨の不信任案に、階級的立場を明示して賛成する。これは田中内閣打倒の最も合理的な態度である。田中内閣を倒しても後にくるものは、民政黨の内閣だ。民政亦吾等の敵だ。しかし、田中内閣の存在を許す事は出來ない。吾々はたゞ民政黨を利用さへすればよい。民政黨と一歩進んで野黨聯合[illegible]を開く必要はない。[illegible]ばならない。[illegible]にしてゐるから、[illegible]れない。それはあだかも、地主と小作人が相談するものだ。こんな態度は無産黨の進むべき道ではない。たゞ、田中内閣打倒のみの問題を利用すればいゝ。

いざ全國の民衆諸君

治安維持法等の惡法を眞向にふりかざして無産階級運動の前面に立ち塞がらんとしてゐる田中内閣、民衆を窮乏のどん底におとし入れた田中内閣、彼こそは吾等の敵だ。田中内閣打倒の運動を燎原の火と捲きおこせ、すでにして全土に渉つて大衆運動は展開され、亦展開されんとしてゐるのだ。砲丸となつて特別議會の門口に迫れ。

電車賃値上の計畫を叩き潰せ

東京市電氣局は市内電車の電車賃を値上改訂すべく目論んでゐる。聞くところによれば、一、區間制、二、均一値上、三、乘換券料徴收、四、系統別料金制の案の内、最も有力なのが一の區間制で一區を五錢として三百萬圓の増收を計らんとしてゐる。この三百万圓は何人の負擔になるかは、勞働者、小市民、俸給生活者の懐から搾られるのだ。乘車券が値上になつたからと云つて月給が上る譯ではない。失業者が救濟される譯ではない、その逆だ。大衆の生活は益々苦しくなつて行くばかりだ。政府や市會は出來もしない社會政策論など、大衆の前で屑籠の中にたゝき込んで了ふがいゝ。

之の料金改訂に就いて、東京市電氣局の一幹部は云ふ。曰く、「電氣局は三千三百万圓の純收入に對し營業費と公債元利支拂とで同額の支出をしてゐるが、要するにこれは一時の彌縫策で、維持費の如き又減損補塡金の如きを正當に見積れば四百万圓は不足してくる。この不足を補ふには料金改正より外にはない」と。

諸君、その不足は、當然、金持資本家に出さすべきだ。金持、資本家がどんなに市會議員を操つて惡事、我慾をやつてゐるかは、大衆の目にははつきり映じてゐるのだ。東京の眞中に山があり、畑があると云ふ事は彼等の公然の脱税を示してゐる。その他數へあぐれば枚擧に遑ないであらう。

すべての税金は金持から拂はせろ。

吾々無産階級は電車賃値上反對運動をひつさげて、一大大衆運動をまき起せ。今年のメーデーのスローガンの一とせねばならぬ。

腐敗なる特權的階級的な市會は速かに解散して信を大衆に問ふがよい。勤勞階級の生活を脅威する市電賃値上に對し、大衆は一大示威運動を開始せねばならぬ。あまり、惡い事をすると、自らの繩で自ら縛せられて了ふぞ。（東京市一勞働者　山田生）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

處女地を擴がる無産友黨の陣營

反動の渦卷が、どす黒く荒れる中を吾等の友黨は燎原の火の如く大衆の中に擴がつて行く。無産黨の力は何等かの機會と動機に依つて至る處に組織され計畫され準備される。眼を擧げて富山縣全土を見よ社會民衆黨は滑川町に縣第一支部を有し、勞働農民黨は富山市支部高岡市支部、新庄支部、新港支部の四個支部を有し新に氷見伏木の二箇所に支部組織準備會を結成しつゝある。

また大衆の支持を失つた日本農民黨は漸次富山縣農業團體聯合會に勢力を扶殖し始めた。しかし此の黨の幹部の日和見事大主義が小作人階級に何程の利益を齎すかは反動團體のそれに等しい位が、關の山であらうと思はれる。

中央の政黨と孤立した謂ふ所の地方無産黨としては東礪波郡の南野尻村の自治倶樂部あり、射水郡の海老江勤勞黨がある。

其他結成されんとするものは西礪波に自治倶樂部組織計畫あり其他進め社支局に情報なきもの、數また二三に止まるまいと思惟されるのである。

近頃目星しいこれ等の黨派の會合は大山郁夫氏を招じて富山市にて聯合會を開かんとする勞農黨の會合に伏木、新港の支部發會式と去る三月十七日富山縣會議事堂に開催された日農系の農業團體聯合會位のものである。但しその會合には梅村穀物檢査所長、中田農務課長の御講演があつたことを附言する。此の間に介在して進め社支局は更新的發展運動を畫策しプロレタリア自身の爲になるパンフレットの取次販賣を計畫其他消費組合のプロ化を議じてゐる。

（進め富山縣礪波支局）村山鉦次郎

高知支部はかく戰ふ

赤旗を先頭に 去る四月一日、日勞黨高知支部を訪れ、四國自動車製作所のストライキの經過を聞き、夜六時半より高知市帶屋町光採殿に於て、高知印刷勞働組合の發會式を擧行するとの事故五時半日勞黨員及び高知勞働組合の人々等と赤旗を先頭に支部より光採殿に乘込み物々しい番犬の警戒中に發會式を擧行し、終つて演說會に移り、社會民衆黨支部の安岡抜山氏山本義雄氏及び日本勞農黨の前田晴生氏及び爭議應援に來高せる婦人同盟の中川良子氏高知勞働組合の細木愿吉氏等各々無産階級の悲痛なる叫びを擧げ十一時閉會し、吾等は降り來る雨の中を再び赤旗を先頭に日勞黨支部に引上る。

痛快なるかなかくして南國土佐も次第に階級意識に目覺め、各所に無産團體の結成を見る。

（高知縣 小松生）

昨四日 四國自動車製作所爭議は大勝利解決しました（日數二十入日間）

何しろ他に例のない爭議である。

（社長の首と專務の首を切り、十ヶ條の勞働條件）の要求である土佐ならでは出來ない藝當であります）

五月十日迄には上京します。よろしく御願いたします。

前田晴生

生きる權利と儲ける權利、進めメダルは賣切れです。廣告する迄は注文御斷り致します。 發送部

野田の爭議を必ず勝たせて下さい

野田の小學生はかく叫ぶ。

私は野田醤油會社爭議團の一勞働者を父にもつ小學生であります。母のすゝめにより、父の日頃愛讀してゐます「進め」に野田の私達小學生が何故學校を休まねばならぬかの譯を投書して、全國の無産階級の人達に讀んで貰ひたいと思ひます。

會社は組合をてつてい的にやつつけると申しまして、政府の力や警察の力に頼つて組合を壓迫してゐます。去年の九月中頃から初まつて今日迄隨分長い間、組合は全力をつくして奮鬪してゐるのです。組合の要求は生きて行く上に必要な立場からであつて、會社の方の申分は金儲けの爲めです。

私達子供は家庭に一錢も收入も無い時に學費をつかつて學校に行く事がどうして出來ませう。もし、行つたにしても、父や母の事を思ふとどうして一心に勉强する事が出來ませう。會社の人や、ブルヂョアの人は子供を休校させるのは危險だと云ひますが、組合が休校させたのでなく、私達の生活のもとを斷ち切る會社の企みです。

野田の小學生の間でも、會社側の奴と、組合側のものとは喧嘩してゐるくらゐです。四月號の「進め」に宇都宮の小學生が、選擧ごつこをして麻生久が最高點で微笑しました。僕達にも選擧權があつたら、組合をぶちこはす樣な奴には一票だつて入れはしない。不思議に思ふのは、國利民福と云つてゐる政府の人々はこの長い爭議に手を組んで見てゐることです。それはかりではありません。會社とぐるになつてせめたてゝ來ます、組合が内務省と宮内省に請願する爲めに、わらぢ穿きで上京しようとすると幹部を檢束し、私達を解散させて了ひました。

野田の町は毎日、飢えと涙に滿ちてゐます。しかし、會社などにはたとへ死んでも負けるものですか。あはれなのは、僕の友達の家は商人ですが品物が賣れないので、どこか遠い所へ行つて了ひました。こんな事は續々あります。みな會社の横暴からです。

みなさん。野田の私達の爭議が勝つか負けるかは、日本全體の勞働者が勝つか負けるかの問題です。全國のみなさん、野田の勞働者を必ず勝たせて下さい。キッコーマンといふ會社の製造する醤油を買はないで下さい。（野田 原本虎雄）

盟休兒童解散式

五百六名の盟休兒童も二十一日午前十時支部事務所において解散式が行はれた。野田爭議の悲壯にして深刻なる印象は、この兒童等に何を與へるであらうか。未來ある盟休兒童の上に、爭議團を初め全無産大衆は萬腔の熱情をさゝげねばならぬ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

山陰の一寒村 自由青年團の旗翻る

島根縣能義郡大塚村は村内山林の大部分を國有林及舊藩主松平山林に沒收編入されて以來ながき搾取と掠奪に衰廢を重ね年々戸數の沒落を見て來た一寒村であるが、先の總選擧に於て日勞黨の公認候補として島根無産大衆の動員の爲に奮然として立つた福田狂二氏の應援辯士は此村へも來た、前田晴生氏が來た小川友三郎氏が來た上杉定義氏が來た大谷久次氏が來た高田和逸氏が來た藤岡文六氏が來た織本貞代氏が來た吉田初子氏が來た菊川靜子氏が來た、さうして無産階級解放の叫びを擧げた爲に、近年盲目的な小作爭議の慘敗のあとに沈滯してゐた農民の生氣が漲り異常な緊張を來したところへ、淸算局事務を終つて歸來した福田氏の選擧委員の悲痛な敗戰談を聽きまづ青年の憤怒が爆發し、官制青年團は、掠奪の中に生ひ立つ青年に當然現れてくる自然發生的な爆發力を巧に欺瞞し去勢してゆく恐るべき機關である事を痛感し奮然として折柄の青年團總會に解散の動議を提出して戰つたが陰險な支配階級の策動の爲に敗れたので方針を一變してあらゆる迫害に耐えて遂に堅實なる四十有餘名の同志を抱合して四月十日小學校に於て盛んなる大塚村自由青年團の發團式を擧げた。

當日官僚青年團は副團長に團員を統率せしめて傍聽に入りこみ極力妨害を行つたが自由青年團の意氣上りこれに壓倒され最後に講師谷口持田高梨三氏に喰つて掛つたが言下に說破されてすごすごと引上げたのは幸先よい血祭であつた。

かうして大塚村自由青年團は將來村の社會の中堅たるべく、黨の組合のよき構成分子たるべく切實な研究を基本とする活動を開始した。

全國の青年よ!! 無産青年團を組織せよ!!! (島根、明智三郎)

▲總選擧當時、山陰に於ける勞農黨支部の一部幹部の裏切行爲に就いての聲明書は申込次第無料送呈

資本家の攻勢に逆襲して

内外經濟界の不況はやゝもすれば我等の戰陣に不安を與へともすれば、彼等の突如の攻擊の前に屈服しつゝある所多きが、我が内外蓄音機商會の從業員もその情勢を察し早くより尼ケ崎勞働組合に加入し機の來るを待ちゐたりしに知るや知らずや兼ねてより自己の不德により其營業不振になれるをその從業員の怠慢によると感違ひせし工場主は永年の功勞者三名を失業苦の街頭にタヽキ出して、一文の手當はおろか當然拂戻しを受るべきはずの積立金の支拂さへ拒絕した、そのことを聞知せる從業員は即時從業員大會を開き復職要求、待遇改善の要求書をタヽき付け尼ケ崎勞働より常任橋詰氏の應援を求め一戰を交へる決心を示した、驚いたのは工場主と官憲である時は二月三日全國を擧げて總選擧の亂戰の巷である、問題の全國的擴大を恐れて全要求を入れて降服した、然るに廿三日に至り無誠意にして、陋劣なる會社は公約を裏切り官憲反動ゴロと協同戰線を布き攻勢に出てきた。

事こゝに至りて許す必要もなく此の不德野郎を克服せずば同地方の無産者は永久の恥と涙に日を送るなりと、一齊に再起し、組合同盟關西事務局は總動員にて全關西のゼネナルストライキを決行して應援する計を起てゝ戰士を送り、糺彈演說會にビラまき、戸別訪問に大喊聲に逆襲した、形勢に秒々分々と有利に展開しさしも田中反動内閣の尻馬乘の地方官憲も手を燒き、反動ゴロも從業員及び應援戰士の悲壯な活動に舌を卷きて逃げ出し、惡德の親玉の工場主も他の資本家共の自己の工場に飛び火せんことを恐れての忠告と形勢不利と見て二度目の降服をして解決した

今や同地方は組合同盟の旗の下に大衆は全部集りて一大勢力を作りつゝあり。(尼崎、S生)

吾等の陣營より退却せる紳下養之助に與ふ

曾て同志たりし紳下君、君の退却聲明書?なるものを今見た、實に遺憾である。思ひ起せば一年の前、階級正道を稱へし日勞黨の陣旗の下に又全日本農民組合の陣營に共に手を取りて投じ同じく和歌山の地に同志の糾合を務め雨の朝も風の夕べも、全大衆の爲の血戰に日を送り俺の投獄されし後もよく第一線に起ちて指導を盡くされし君は今俺には同志でなくなつた。俺は今君を全大衆の名によりて裏切者と罵しる、君は聲明書にある通り退却でもなければ裏切でもないより好き大衆の爲の進出であると辯解せられても事實の證明を如何にするのだ。

一部の農民は君と共に行動したかは知らん、しかしその農民なる者を今少し大きな眼で眺めて見るがよい。田地の十町二十町を持つ人の息子、學校教員、反動青年團の役員村役場の吏員等それが農民が君よ君の居村の無産農民は一齊に君の裏切を鳴し君を今まで支持して指導者の地位に敬して居りし和歌山の無産大衆は全部が裏切者と呼ばつてゐるではないか。

それに對して君に呼び掛ける者は民政黨の策士、中井勳及びホラ傳の異名ある山崎代議士一味だけだ。彼等は口に自由を說き大衆の幸福を叫けんでゐても何一つ實行したか、彼等の罪惡は和歌山の政界を腐敗せしめた政友會海草倶樂部とどれ丈けの差がある、手近の例を取れば京坂電氣の値下問題はどうだ彼等は笛吹き太鼓をタヽキ吾等の陣營までも共同戰線を求め來り吾等はその求めに應じて起ちし時は彼等の踏臺となりて彼等を市會と縣會に送り込み結果は、蹴飛しを食ひ、値下げ問題は會社に賣り込まれ、彼等の一味の懷中を温めたにすぎず。それに奮起して松村旗三なる二十才の白面の青年が爆彈を取りて京坂會社を襲擊して、その人柱によりて料金の低下すればその功を橫取せし者は彼等ではないか。

此の一事を見ても彼等は吾等の友でない事は明白だその者共と行動を一つにするは裏切者反動でなくてなんだ。

君は更に俺ば○○主義者ではない俺は議會主義者だ日勞黨の敗戰は革命主義の結果だと公然と罵つて居る、だが紳下君よ君も今の今まで議會萬能主義者でなかつたはずだ。總選擧中俺によこせし書信にもはつきりとそう言明してゐるではないか。

君はなんと辯明しても裏切だ金の爲に地位の爲のその樣な素

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

犠牲の實に今更理論を說く必要もなしと思ふ故俺は止す其代りとして、絶交を宣す、裏切者輩下よ！ 好く眼を見開きて事實を見よ！ 然して己の影うすきを知れ。

一九二八三月　富岡　光

野田争議に付て日勞黨に與ふ

野田争議は半年以上を費して未だ解決せず罷業團は家族に到るまで老幼全員が戰ひ、眞に決死的な争議である事は全世界の罷業史にもまれに見る所である、眞に血みどろの戰で戰爭を除いて、他にない。濱松樂器争議の如きは評議會の例の宣傳計りでこゝ迄も眞劍なものでなかつた。評議會の如きはとてもかくの如き決死的争議はやる事は出來ない、吾等は争議團や松岡氏に滿腔の同情と敬意を表ずる者である。

然るに日本勞農黨は此争議を何と思ひゐるや、一片の同情應援を爲せし事も未だ聞かず同じく無産團體として奇怪なる事ではないか徒らに分裂主義者なる勞農黨解散に形式的同情をする前に先づ野田の勞働者に同情を表すべきでないか。

日勞黨幹部は社民黨幹部と快からざるは世間周知の事だが私的感情に依りて爭鬪、無産團體として爲すべき義務を忘れてはならぬ。

彼勞農黨の如きは常に黨意識計りで階級意識階級運動精神を無視して分裂を策して今日の對立を來さしめ資本家に乘ぜしむるスキを與へた。無産階級の正道を歩む日勞幹部諸氏の猛省を望む。

思ふに野田の争議は資本家が全日本の勞働者大衆に對する挑戰である、黨の何れなるを問はず、組合の何れに屬するを問はず全日本の無産團體は應援せざるべからざる大問題である。

この大争議を一松岡の問題として取扱ふのは未だ眞に無産者運動に徹底せざるものと云はねばならぬ。

口きくなお茶出すな泊めるな

東京龜戸支局　加藤榮一郎

新潟縣に於ては日勞黨の幹部及び全日本農民組合幹部に對して、口をきくな、お茶を出すな、とめるな、と純朴な農民を煽動した、勞働農民黨や日本共産黨があつた、これは分裂主義の總大將福本和夫の命令によりて稻村隆一がやつた、全日本農民組合の三宅、淺沼氏等は農民の爲めによく戰つて下された、そして小作人は親の如く慕つた、それを醜さんが爲めに逆宣傳をして甚だしきは强迫をした、それでも農民や組合員は三宅氏等を厚意を以てむかへた、今新潟縣では稻村のやうな奴を相手にせず、日本農民組合を脱して全日本農民組合に行かんとして居る、如何に彼等が惡口しても誰れも信ぜず、反つて農民自身から勞農黨や日農幹部に「口をきくな、お茶を出すな、とめるな」と申合せをした、彼等は大衆から離れて了つた、大衆は聰明だ、これから新潟縣の農民運動は偉大な進展をするであらう。

新潟　山内　眞三

反動政友會官憲博徒の共同戰線

政友會の暴虐は全國各地に魔手を振ふ事幾年その非道行爲は數ふるを得ず彼等は自己黨派の爲の横暴は大事々に正義愛國の名の下に結論をなし、絶對民衆の福利に關わざる事萬人周知の事である。殊に和歌山縣はその極端にして、政友會は總ゆる機關を占領し爲に民衆の平和を保つべき警察さへ彼等の機關の一つであり、その下に無頼の博徒をも手先に使ひ常に正義を壓してゐるが、今回は特に我黨内閣をバツクとしての横暴はその極度に達した。

和歌山警察署の幹部は全部を擧げて政友會の×共である！現署長今江某はかつて京都七條の署長として水平社その他解放團體に壓迫を加へ至りし者なるが屈せざる京都大衆の反抗運動にその立場を失ない行先に迷ひし奴を和歌山縣出身政友會の前農林大臣岡崎は和歌山に連れ來り和歌山署長として椅子を與へ來るべき今回の總選擧に備へゐたり。彼は京都に於いては、民衆憤激を惡壓するに市井の無頼の徒を常に頼みとせし惡人なれば和歌山に來りてもかねてより和歌山署と連絡を取りて害毒を流し市民に迷惑を掛け至りし博徒佐々木一派と結託し民衆の正義心を威迫を持つて總選擧にのぞみしも民衆全部反政友なりし爲彼等の親分連中は大半は落選したるを遺恨に思ひ、反政友派の運動員を多數あらぬ罪名をオツかぶせて取調べるに當りこれ亦かつて大阪府警察部内に狂人と呼ばれし警部木滑を主任にした。此奴は又自己の我慾を知りて正義の知らざる××にして自己に袖の下を持ち來る者に寛大にし然らざる者に對して、酷く四六時中に前記の惡徒佐々木等よりテラ錢の上前をへネる奴でありしが自黨に忠義を盡くすは此の時と喜び勇んで反政友派の運動員を半殺にして取調べし爲人權蹂躙問題起り、正義派の辯護士より告訴された、所が奇怪にも署長今江は自己の手先である博徒共に言ひフクめ暴力を持つて告訴取下げ運動をなさしめしが正義の前に何者もなき正義派の人々はその要求は拒絶した。そこで彼等政友會の惡玉連中、今江署長木滑警部は協議の上正義派の告訴辯護士を○○して事を決すべしとなし四月十六日和歌山市三番町辯護士志波清太郎事務所に正義派の會合あるを探知し午後十時頃佐々木一派の暴力團二十名をして襲擊せしめ正義派の辯護士和田氏坂口氏その他數名を殺傷した。その時急を和歌山署に報ぜし者ありしに和歌山署は一名の巡査も現場に向はしめず彼等の暴虐にまかせたのである。彼等政友會は自己の權力を利用し反動無頼の徒を手先に使ひ惡事をなす事かくの通りである。我等全日本の被壓迫階級の名によりてこうした正義を何ものか知らざる○○政友會その手下の○○○及博徒等の奴共を地球の外へタヽキ出すべく團結しようではないか政友會を葬れ正しき職務を忘れる×××をヤツ付けろ！ 博徒無頼の輩一切の反動共を懲せ！ 正義の爲に我等は戰ふぞ。

和歌山（津田　清一）

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

英國農民史要

フォーダム
淺野研眞譯

小引

本誌から數ケ月に亙つて連載するであらう所の此の『英國農民史要』は、一九二五年に英國ロンドンの勞働出版社から出版されたフォーダムの著書（Fordham The English Agricultural Labourer, 1300—1925, London, 1925.）の全譯であつて、最も簡にして要を得たものであることは確かだ。譯者の淺學菲才のため、甚だしく混淆の個所もあらうと思ふが、それは大方諸氏の御批正に俟つて、何れ訂正する機會があらう。

尙ほ譯者は、この飜譯に當り小森善逸君の助力を得た點が甚だ多い記して以て謝意を表す。

尙ほ本譯を進むるに當り、次の諸書を座右に置いて、多少の參照をなした。

(1) Hammond, The Village Labourer, 1760—1832, London, New ed., 1920,
(2) Bradley, The Enclosures in England, N. Y., 1918.
(3) 伊藤恭太郎, 英國小作制度の歷史的考察, 東京, 昭和二年

第一章　往時の英國農村生活（一三〇〇—一三五〇年）

土地を持たず、賃金のために働く所の英國勞働者の歷史を知るためには、六百年以前に遡る必要がある。即ち當時の英國は、小さな村落に生活する小地主等によつて耕されてゐた。此等の人々はずつと以前から傳へられてゐた共同的な制度によつて、その村落の行事を處理し、また土地を耕作してゐた。此の時代に於ては、土地を持たない勞働者はなかつた。

當時の英國は、全く、今日とは非常に異つてゐた。即ち次の如き四つの大きな相違點があつた。

（一）英國は、農業國であつた。全人口は、二百萬足らずであつて、今日と比較すれば二十人に一人の割合であつた。その殆ど總ては、全國を通じて、農村に散在してゐた。大ていの人民は、土地を耕作し、そして總て其のことに興味を有してゐた。大工、皮革工、靴屋、石工、織物工、染色工、武具屋、鍛冶屋などのやうな、小さな町や村落に住んでゐる職人さへが、秋穫期には妻や子供を連れて、穀物の刈入れにやつて來たものだ。

（二）英國に於ては、人々は主として、彼等自身の村落、又は莊園で、食糧を生產するために耕作した。穀物や、羊毛、又は其他の生產物のほんの少しばかりの賣買しか、村落と村落との間には行はれなかつた。いはんや、州と州との間には、殆んど賣買はなかつたと云つて良い。道路は少しはあつたが、恐らく古代ローマ式の道路を除いては總て、無雨期以外には殆んど通行し得ない、荒れて草の生ひ繁つた地帶であつた。馬車や荷馬車は稀で、それも農場を除いては、たまにしか使用されなかつた。外國貿易に際しては、船は少く、航海は危險であつたから、海を越えてする外國との取引は、殆ど考へられなかつた。英國は自らを支持しなければならなかつた。そして各村落は主として自らの食糧を見出し、且つ自身の小家內工業を持つてゐた。

（三）英國は個々の所有地に分割されて居て、その各々は殆ど小王國の如きものであつた。此等の所有地は、莊園と呼ばれてゐた。そして各莊園は、領主によつて支配されてゐた。そしてその領主は、彼自身の大きな邸宅と土地とを所有した。しかし彼の莊園に生活してゐた多數の農民は、彼の農奴であり、若しくは奴僕であつた。莊園の內、或るものは國王に屬し、また或るものはノルマン領主及び貴族に屬して居た。また大部分は僧院又は教會に屬して居た。そして僅少の部分は、それを貴族又は國王自身から得てゐた所の富豪の所有に係つてゐた。

（四）農民には、僅少の例外はあるも、殆ど自由はなかつた。彼等は、所々と轉住することを許されなかつた。そして彼等自身の村落に止住するやうに縛り付けられ、彼等の居住する所の莊園の支配者と慣習とに支配されてゐた。

（a）莊園の生活

殆んど凡ての莊園に、領主の自用のための、領主の所用にかゝる若干の土地があつた。即ち、領主の用地（demesne）又は後に至つて「お屋敷農園」（home farm）と呼ばれたものが、之れである。例へば、古い記錄は、ヘベアリングの莊園に於ける國王の[illegible]屋敷農園に就いて、かう書いてゐる。——

『國王は、そこに、二百二十三エーカー半の耕地、十五エーカーの草地、二十三エーカーの分離された（即ち、圍ひ込まれた）牧場を持つてゐる。尙ほ國王は、垣や溝で圍まれた彼の邸園內に、一筆の土地を持つてゐるこれ即ち國王の花園と呼ばれたものである。國王は其處にペーリングで圍まれた邸園を持つてゐる。……國王は、その同じ莊園內に、また三つの外廐林を持つてゐるとのことだ。』

その他の耕地は、農民の土地であり。「村落農園」であつて、農牧の用に供せられ、別に牧場のための共有地や、凡ての人の使用のためにする廣漠たる森林や未開墾地があつた。莊園の境界の內部には、農民の小屋や、粗末な茅屋があつて、其れがどこの村落にも群がつてゐた。此等の百姓は、異つた階級のものだつた即ち、農奴又は奴婢——その內の或者は「賤民」（villein）と呼ばれ、また他のものは「小屋もの」（cottar）又は「邊地もの」（border）と呼ばれてゐた——、少數の自由民とであつた。賤民は、その小屋と三十エーカー（一エーカーは我が四段二十四步——譯者）とを持たせられた。それで若し彼が領主のために働くことを拒まう

ものなら、彼は放逐されてしまふのだ。しかし此のことは殆んど起らなかつた。と云ふのは、理解されるであらう如く、賤民が領主の保護に頼つてゐたと同様に、領主は賤民の勞力に頼つてゐたからだ。賤民が死んだときには、その小屋と土地とは、原則として直に其の長男に行つた。多くの莊園の法律は、賤民に其の三十エーカーの土地を分割することを禁じて居り、それがためにその弟どもは彼自身の利害を探求せねばならなかつた。かくして彼等は農民の第二階級たる小屋もの又は小邊地ものになるのであつた。小屋者は小屋と五エーカー程の地所を、何所かに持たされる。どの莊園に於ても、領主の監督者、その監視人、及び村長又は名主、牧羊者、牧畜者、作男、それに鍛冶屋が一人居た。また大低の莊園には、僧侶が一人居つた。

すべての農民は、穀物、蜂蜜、羊毛又はバター等のやうな生産物を、莊園の領主に年貢として納めると共に、莊園の慣習に從つて、一年の間の一定數の日時を、領主の土地で働くと云ふ條件の下に、その土地を保有してゐた。かうした慣習は、同じ國でも、所が變るに從つて變つてゐた。古い法律上の文書は、「土地は、種々であつて、吾々は凡ての所にあてはめない。と云ふのは、吾々は人民の中の法律を喜んで學ぶであらうから」と云つてゐる。三十エーカーの人は、一般に、領主の土地で、毎週二日若しくは三日をさへ働かねばならなかつた。それでも祭日(これは多かつた)だけは除かれた。しかし收穫期には、それ以上の日數を働かねばならなかつた。

小屋もの、即ち五エーカーの人は、原則として、領主のために、一週間に只一日を働けば良かつた。然し收穫期には、それ以上働かされた。これらの人々は、屢々、領主のために、月曜日に働いた。それで月曜もの(Monday man)とも云はれてゐる。

自由民は收穫期を除いては領主のために定期的に働くやうには束縛されてゐなかつた。そして所々轉住するの自由があつた、農奴よりは、ずつと獨立的であつた。

勞働者階級の起つたものは、小屋ものと自由民とからであつた。と云ふのは、彼等はその手に餘裕があつて、時折りその勞働を雇はれてゐたからだ。賤民は又、小屋ものや、自由民を雇ふことが出來た。それは彼等が領主の土地で、賤民の代りに働くことを承諾した場合に於てであつた。

(註) 小屋ものにとつては『領主の田宅(お屋敷農園)に、又はより富裕な賤民の所有地に、雇はれて働いて生活資料をまかなふための多くの閑暇が殘されてゐた。かくて經濟的進化の初期に於て、吾々は明らかに賃金取得階級の發生を得た。而して此の階級は、賤民制度に取つて代つて、近代産業社會の經濟的基底となるべく運命づけられてゐた。』(リツプソン『英國經濟史』參照)。

(b) 莊園の農耕

往時の農耕の公開園圃制度は、働くには容易であつたが記述するには困難である。所によつては、それは七十年前まで、否な、もつと其れ其後までも、存續してゐたそれは幾らか細部は變つてゐるが、ノツチンガムシアイアのラツクストンに於ては、今尚ほ行はれてゐる。

村落、農園に屬してゐる耕地は、多くの場合に於ては、周圍の州から境界された、各々約百エーカー位の、三大公開園圃に分割されてゐた。これらの三大園圃の各々は、シヨツト(shot)、ランド(land)又はエーカー(acre)と呼ばれる澤山の細長い畑地に割られて居つた。そして此等の畑地の各々は、その隣地から、狹い草の『畔』(balk)、又は溝によつて、分割されてゐた。農民はこの公開園圃の畑地の中に、彼等の農地を持つても良かつた。三十エーカーの男は、各耕地に十個の分散した畑地を持つても良かつた。小屋ものは各耕地に僅か一つ又は二つしか持てなかつた。僧侶も彼自身の畑地を持つて良かつた。村の鍛冶屋もその畑地を持つた。領主も亦、彼の私有のお屋敷農園と同じく、屢々村落農園の中に一つの分前を持つた。

一三九七年の證書は、モーブリーと云ふ所に小屋を持つてゐた所の一農民、モルガン・ゴツフの所有地に就て、次の如き記述を與へてゐる——

『そして三エーカー——ロツド(ロツドは我一段六歩餘——譯者)の耕地が、モーブリーの畑地に横はつて居るが、その中の一エーカー兩側に領主の土地のあるブローカリーグに横はつて居り、一エーカーは領主の土地とトーマス・コツプの土地との間のトートコムブにあり、三ロツドは領主の土地とウイリアム・コツクスの土地との間のブローカリーグにあり、半エーカーはトーマス・コツプの土地とラルフ・スマールの土地との間にある。』

彼はまだ持つてゐた——

『半エーカーの草地を兩側にギルバート・スコールマイスターの草地のあるスターチル・ミードに持つて居た。そして又共同で、一定の鋤獸と二定の馱獸のための牧場を持つてゐた。』

毎年、一つの大農園は、小麥又はライ麥に使用され、第二の農園は大麥又は其他の春の穀物のために使用され、そして第三の農園は休ませられた。そこでは今日大低の農場で行はれてゐるやうに、收穫物の規則的な循環があつた。しかし、クローバーとか、牧草とか、又は其他の羊や家畜の食物の如きものは、今日では農場で穀物の收穫の間に作られてゐるが、當時は知られてゐなかつた。

穀物の收穫物が刈り取られるや否や、全村落の家畜、羊及び豚は、その土地の上に放たれるのであつた。

小畑の中に又、分割された草地があつた。そして農民はその一つ又はそれ以上を持つてゐて、それから枯草の收穫を刈り取つた。此處で再び、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

枯草が刈り取られた時には、その土地はその村落の牧畜場にされた。

最後に、そこには、牧場や森林や、未開墾地などの、今日吾々が、呼ぶやうな共有地があつた、此處の貯藏品（草）は村落の牧者の監視の下に食はされた。村人は此等の共有地から、建築、薪炭、生垣を作るために、木を得ることが出來た。そして又、必要な時には、芝や石や砂も得ることが出來た。總ての農民は、木を蒐集し、家畜を育てるために、若干の共通權を持つてゐた。ヘバリングに於ては、この共有地で――

『同じ莊園内の凡ての小作人は、勝手に前述せる共有地て、自分の好きな時に、獸類や家畜が得られた。』

また森林地では、狩獵物を捕へることが出來た。これは農民の肉室の大きな助けであつた。

村落有の農園は『田園審査員（bield jury）』と呼ばれる選出委員、並に矢張り農民によつて選擧された田園監視人の管理の下にあつた。

（〇）農民の生活

農民は確かに痛ましきものだつた。領主は彼を、スコツトランドや、フランスや、に於ける戰爭に、又は他の領主との個人的な爭ひに、戰はすべく呼び出す。農民は、かくて其の家庭と仕事とを去るべく餘儀なくされた。領主は又常に公開地又は森林及び未開墾地の大部分を取り上げ、それを彼のお屋敷農園に附加し、かくして農民の共有地を少くしつゝあつた。それのみならず、多くの莊園に於ては農民と監理人との間に絶えざる鬪爭があつた。即ち一年間に幾日を農民は領主のために、そのお屋敷農園で働くべきかに就いて爭つたのであつた。

しかし、その凡ての苦痛にも拘らず、英國の農民は、十四世紀の前半に於いては、一般原則として、その後繼者である所の百年前の英國勞働者の運命であつた所のものよりは、より良い生活をしてゐた。彼は健全にして獨立した者であつた。彼には澤山の休日があつた。彼の日曜日は自由な日であつた。また多くの聖人の祭日があつた。それのみならず、彼には多くの興味があつた。と云ふのは、彼は村落生活、田園の耕作、及

農村を如何にして生かすべきか

中島安太郎

農村をして如何に生かすべきか。僕は無造作に答へる。小作料の値下げと消費組合の設立、といま一つは農業の工業化である。日本の農民組合が小作料の減額運動の爲血みどろになつて戰ひ來つたことが農村プロレタリア、即ち農村に與へた刺戟の如何に大であつたかは云ふまでもないが、產業組合卽ち消費組合運動の上に何等見るべきものがない。たゞ統計の示す處によれば小作人の手に乘つ取られたる產業組合數が日本に十個ある。そのうち木崎村のそれは解散の止むなきに至り、比較的良好なる成績を舉げてゐるものは群馬縣強戸の信用販賣利組合と、鳥取あたりの一二の組合だけにしか過ぎない。何故に消費組合が必要であり、大切であるか、その理由は簡單である。

秋田消費組合の宣言は次のように云ふ『私たちにはなくてはならない食料品や、衣服について私たちは、もつとよい品を、もつと安く買ふことが出來る筈であります。』

それはタチマチ出來る。すこしもむづかしい事ではない、それには我々需要者（消費者）たちが品物をツクル人から直接買ひ取つて口錢やナカ錢をヘブクにすることです。進んでは私たち組合員で使ふものはナンでもみな私達の組合の工場でつくる樣になることです。しかしながら、それには一つの不便があります。それは我々消費者が一人ひとりに砂糖半斤を臺灣に注文したり、リンゴ五つを青森に注文したり片栗一個を北海道へ注文するといふ風ではトテモやすあがりにはならないといふ事です。さりとて三十年分の砂糖を今一度におかうたつてそれも出來ることではない。それではどうすれば直接生產人の手から安い値段で買ひとる事が出來るでせうか、ソコデ協同協力と云ふことが必要になつてくる。みんなでチカラをあはせて、みんなで協同協力といふことが、大事になつて來ます。

たとへ少しづゝでもたくさんの人々がまとめて買へば相當なものになる。一人一人勝手に買ふのではトテモ出來ないけれども、みんなが一しよにチカラを合はせてやればたしかに出來るのであります。』

理論はこれで盡きる、あとは實行するだけだ。生產者の生產品の販賣にしてもそうなのだ。これを農村に徹底せしめる。

次には都會に集中せんとする農村民を田園にひきとめる爲、農村に小工場を散在せしめることだ。蒸汽機關の發明以來、著るしく都市集中の傾向を生ずるに至つた工場も、今や水力電氣の發明、內燃機關の發明によつて、工場は散在するを利益とする傾向を生ずるに至つた。即ち最近農村の手工業が全く都市の機械工業に驅逐されたと云ふ事に對して內燃機關と電力は新興的仕事の役割を演ずるに至り、大量生產の[illegible]者であるフォードがこれに成功してゐる。フォードは今デトロイト市近郊ノースサルにパアルプだけを製造する小工場を設けてゐるが、八年前に三十五人の職工と必要な機械とを會社から總

び隣人との社交と娯樂の管理に參加せねばならなかつたからである。かやうな問題には、領主は殆んど干渉せず、細末の事や紛議事は、村落民自身の決定するに任せて置いた。

自由民の生活は、そして恐らく小屋ものゝ生活は、賤民の生活よりも、即ち三十エーカー者の其れよりも、より多くの獨立を意味してゐたと云ふことは、疑ひなきものゝ如くである。此の時が經つに從つて、此の階級の人々の多くは、その莊園の領主と親しくなつて、自由を得るに至つたのである。一三三四年にかうして自由を得た所の、ウツテンフアルの、ゼオフレー・アウステインの一記錄に曰く――

「かくて彼の彼は一族及び家畜の凡てと共に、その身體の自由を得た。それ故、此後は永久に吾々(卽ち莊園の領主)のみならず、吾々の子々孫々までも、彼又は彼の一族又は家畜の中、どれでもを要求し又は請求することは出來ないであらう。」

かくしてゼオフレー・アウステインは、自由になつた。疑ひもなく、彼はその土地に對して、物品で幾らかの借地料を拂つたが、しかし彼は領主の土地で毎週働かねばならぬことは無くなつた。彼の好きな所へ何所でも行くことが出來た。また勞働者として雇はれることも出來たし、また疑ひもなく良い給金を得ることも出來た。

かくて、六百年以前の、かうした時代に於てさへ、勞働者の階級は生成しつゝあつた。しかし此等の人々は、後年の土地を持たぬ勞働者ではなかつた。彼等は總て、花園を持ち、そして少くとも一エーカー又は二エーカーの土地を持ち、唯だ彼等の暇な時だけ他人のために働いた。

(第一章終り)

(二十九頁より續く) 彼等の味方の大多數なるに云ふべからざる力強さを覺えて來る。

プロレタリヤの増大が初めは資本家の爲めに利用せられ、彼の利己心の犧牲となる必然性をもつてゐるが、やがてプロレタリヤの自覺の漸次として銳くなるにつれて、資本家側の恐怖の的となる可能性を有する。プロレタリヤは資本主義制度の發生と共に生れ、資本主義の發展に附隨して増大し、つひには逆轉してプロレタリヤの増大が資本主義制度を××する基因となつて了ふ。

つただけで、勞働者は附近の農民を使つてゐる。現在三百名の勞働者を使つて一日十五万のバアルヴを製造してゐるが、その生産費はヘイランド・パークの本工場で一個八セントのものが、この小工場では僅に三セント半で出來る。大工場の大量生産でなくては生産費を低減することが出來ないといふのは蒸汽機關萬能の時代の話で今では通用しない。ここに働く勞働者は附近の農民で僅の時間で機械力で在來の仕事を仕上げて又工場で大いに働く。又フィニックスにある小工場では發電機の開閉器を製作してゐるが、百五十人の女工と九人の男工とで一日八千九百組を製作してゐる。その費用はヘイランド・パークでは三十六セントであつたものが、この小工場では二十八セントである。規模が小さくて却て生産費が安いのである。それで一日八時間一週五日、一日最低賃銀六ドル拂つてゐるといふから驚くではないか。この外にフォード氏の經營する農村散在の小工場は多いが、いづれも好成績をあげてゐる。これは大阪日によつたものであるが、要するに同紙の所論の如く、生産費を節約する爲に都會に集中し規模を大にするといふ必要は動力革命によつて減じて來たし、散在式の小工場で農民は工場勞働者として働く外、耕作に機械を使用すれば工場で働きつゝ、農業が出來るのである。現實に立脚した、若い社會主義者は將來此の問題について(實現)奮闘努力するの必要がないかと私は思ふ。貨殖の爲のそれではなく農村を生かす爲に、社會を本とする幸福增進法の爲に。

以上述べた三項目

一、小作料の減額
二、消費組合の設立
三、農村の工場化

の第一項小作料の問題については、神庭何之助氏著「小農民諸君に與ふ」の全文を參考とせられ度い。

――昭和二年三月三十日於部落講習――

淺野研眞氏消息　大雄閣より『社會現象としての宗教』を近刊

日本勞農黨歌【一】

(河野密氏作、あゝ玉杯の節)

一

冬暗澹の雲破り
　春光地上を射さんとす
結氷固き地を割りて
　若草地に萌えんとす
搾取の支配斷ち切りて
　民衆の叫び今あがる

二

階級茲に三千年
　壓政既に極まりぬ
鐵鎖の惱み屈辱の
　悲憤の胸を引裂きて
今こそ起てり我友は
　政治の自由を求むべく

三

戰今や闌に
　民衆の步武堂々と
敵の牙城に肉迫す
　聞ずや友よ解放の
曉告ぐる鬨の聲
　其の名ぞ日本勞農黨

メーデー

久坊

櫻散り青葉かほる
五月一日なつかしの日
我等のメーデー
進む大衆陣の勢揃へ
足音高く同志は進む
勞農自由の王國確立まで
一切の舊き遺物を
一擧にケツ飛ばせ進め
同志よ强く堅く此の日より
我等が前途無產者萬歲

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

無産運動講座

資本主義・社會主義

神庭仲之助

資本主義のかいぼう（一）

プロレタリヤの不安

資本主義的生産が、しつかりと社會生活の上に根を擴げて來るに從つて、必ずプロレタリア階級が增大し、遂には少數の資本家階級を餘す外は、彼等によつて充滿されて了ふ。何故、資本主義社會においてはプロレタリヤが增大して來るであろうか。資本主義社會においては、これ程怠け者がゐるのであろうか。仕事に就いては冷淡で、物事にはすべて飽き易く、箸にも棒にもかゝらぬ怠け者の群がこのプロレタリヤであらうか。亦、その怠けてゐる當然の罪としてプロレタリヤ階級は食ふや食はずにゐるものであろうか。もし、プロレタリヤをこう云ふ風にすべてを呑み込んだ氣早い連中は、すぐこう云ふであろう。「プロレタリヤなどを問題にする事はない。彼等は自ら招いて貧乏してゐるのであるから、吾々はプロレタリヤを救濟する必要もないのだ。プロレタリヤが自ら大いに自覺して働いたなら、必ず大金持になれるだろう。昔から、貧乏な家に生れた人が奮鬪してエライ人になつた例もあるではないか」としかし、そう物事を手つ取り早く呑み込んで判斷されては困る。決してプロレタリヤは怠けたからそうなつたのではない。亦食ふや食はずにゐるのでもない。勿論、食ふや食はずの悲慘な狀態にある人々もあるが、必ずしも、それらが全部ではないのだ。

プロレタリヤとはこの資本主義社會において搾取さるゝ所の基本的な階級を指して云ふ。その他搾取さるゝものは、農民とか小市民等であるが、資本主義社會の最大典型的な被搾取者はプロレタリヤである。ではプロレタリヤは、資本主義社會においては、チツト寢てゐても搾取されるのかと聞くとそうでも無い。ちやあ、寢てをれば搾取されないからと云つて毎日ゴロゴロ寢てゐる譯には行かない。なぜかと云つて、それは人間ともあるべき者ならすぐうなづける筈だ。人間は生きて行かれぬ動物である。神棚にあるエビスさんや大黑さんとは譯が違ふ。公園にある銅像とも違つてゐる。さて食物を取らねば生きて行けぬ人間でも、天や地の底から米や味噌や醬油が、降つたり湧いたりしたら、毎日ぶらぶらしてゐても大丈夫だが、そうは問屋で卸さない。人が生きて行くに必要不可缺な食料は、人が毎日汗を流さねばこの世の中に現はれて來ない。だから、人は毎日勞働をしなければならぬ。勞働をすれば、即ち田を耕したり、稻を刈つたり、工場に出掛けてガラガラ機械を動かしたりすれば、米が山になり積まれ、吾々の着る綿織物が出來て、冬の寒さに堪へる事が出來る。以上の樣に人は生きて行く必要上勞働をしなければならない。勞働に從事するに搾取されて了ふ。搾取されまいと思つたなら死んで了へといふ社會である。では勞働に從事するとすぐ搾取されるといふが、一體其の搾取するのは誰れか。それは神でもなければ、佛でも無い。同じい人間の仕業だ。こういふと氣早い連中は、そいつ不都合な奴だ疊んで了へと飛び出すだらう。が暫らく待ち給へ。その搾取するのは人間の中の、ブルヂョアと呼ぶ階級である。氣早い連中が又次の樣な質問を發して來る。でも可笑しいぢやないか、誰れも勞働せねば食料を作る事が出來ないぢやないかと。勿論一般の人が一人も殘さず働いてゐる世の中なら搾取といふ現象は起りはしない。働かない階級があるからこそ搾取といふ事が行はれるのだ。働かない階級は生きて行く爲めに搾取するのだ。無論この搾取も、一人働いて漸く一人の一日分の食物よりも得られなかつた時代には無かつた。一人が一日働くと三日分も四日分もの食料が得られる樣になつてから、搾取される事が初まつた。でこの搾取はずつと昔からこの世の中にあつた。何時の頃でもいやしくも人に働かせてその働いて得た結果を遊んでゐて取上げるのだから、強い腕ぶしや、その他兎に角人より強い所がなければ出來なかつた。或る時代には水もしたゝる氷の刃を力として、庶民階級が一生懸命働いて作り上げた結果を搾取したのであつた。現今の所謂資本主義社會では、この役目を司る者はブルヂョア階級と云つて、一般の人に比較してほんの僅少な人々である。そんな少い人數より無い階級なら、すぐ勝てるぢやないかと云ふ人があるだらうが、一見澤山な搾取される階級の中には、まだ自分達は搾取されてゐる、もつと良い社會を作れば自分達否一般社會が幸福になるといふ事を自覺しない人々が絕對的多數を占めてゐる。自覺した人は限られた數と云つてよい。その上にブルヂョアの方は、國家は自分に都合のいゝ樣に利用してゐる。法律はブルヂョアに都合のいゝ樣に制定され、これにふれようとする思想や、行動には、容赦無い斷壓が立所に下つて來る。××や××もブルヂョアの爲めに利用されてゐる。こうした嚴しいブルヂョアの陣營に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

反對する人は餘程の膽力と勇氣が要るのである。だから、意志の軟弱な人々は一度は社會運動に飛込んで見るものゝ、すぐ逃げ出して了ふ。ブルヂョアは自分等に反對する思想に對しては、高壓的にいぢめるのだが、一方無知な民衆の歡心を買はんとして、自分等の食ひ殘したパンの破片を投げてやる。この政策が社會政策と云ふのであつて、これによつて欺瞞されて了ふ人が幾何あるか知れない。

プロレタリヤは自分の勞働力以外には何の財產をもつてゐない。よし、あつたにしても高の知れたものだ。彼等は勞働を賣つて、その報酬によつて生活する。勞働を誰れに賣るのかと云ふとブルヂョアに賣るのだ。如何にプロレタリヤが勞働だけ所有してをつても、何等かの勞働の對照がなければ勞働は出來ない。何も無い所で手を動かし、身體を動かしても、何の結果も生れぬ。草臥れ損の骨折り儲けである。勞働は、土地とか工場とか、道具とかゞなければ何の效果も表はさない。その土地とか、工場とか、會社とかはブルヂョアの所有になつてゐる。プロは勞働以外に何もないから、否でも應でも、ブルヂョアの所有する生產機關に賴つて働かねばならない。即ち勞働を賣るのである。勞働を賣るといふ事は、ブルヂョアが如何にその勞働を使つていゝわけである。怠けたり等する事は出來ない。ブルヂョアは怠けたり等するとすぐ怒つて追出して了ふ。追出されて了ふとプロはもう生きて行く事も出來なくなる。だから、どんなに其の仕事が自分に適してゐなくても不愉快な仕事でも、怠ける事は出來ぬ。プロレタリヤは決して怠けない。では「かせぐに追附く貧乏なし」との古諺の樣に、一生懸命に働いてをれば貧乏は追附いて來ないのか。働いても働いても、すぐ後を貧乏が追つてゐる。この狀態は資本主義社會におけるプロレタリヤの免るゝ事の出來ない運命である。如何に一生懸命に働いたからと云つてブルヂョアはプロレタリヤに對する搾取を免除しては吳れないのだ。扨て、是迄搾取搾取と口喧しく云つて來たが一體どんな風にそれが行はれるかを述べて置かねばならぬ。文明の世の中だもの、昔の樣に矢鱈に刀を振廻しはしない。プロレタリヤがブルヂョアに勞働を賣る。勞働時間が十時間とすれば、ブルヂョアは五時間か六時間に相當する賃銀を拂ふ。勿論ブルヂョアはこの賃銀は、五時間分に相當するなどゝ云つては渡さない。勞働時間全體に相當する賃銀だと云つて渡す。プロレタリヤに渡した分以外の勞働時間は、全然ブルヂョアの爲めに無賃で働いてゐる譯だ。これが、ブルヂョアの遊んで威張つて暮らせる原因である。反對にプロレタリヤが絶えず貧乏に追はれてゐる原因である。絶えず貧乏に追はれてゐるばかりでなく、時には絶望の淵に陷入れられる事がある。そうした場合は、例へば、働いてゐる工場の設備が非常に惡く、不慮の災難にかゝるといふ場合、亦非常に有害な作業に從事した爲め病氣になつて了ふ時などが想像される。電車の車掌が大抵肺を冒されて夭折して了ふのも前者の例である。かうした場合にも、ブルヂョアは、それは人間の運命だと云つて簡單に片附けて了ふ。次に機械の發明によつて、勞働者が空しく街頭に投げ出される事もある。今迄百人かゝつてゐた仕事が、新らしい發明によつて僅か三人や五人やに減少された場合には、馘首された連中は直に飢餓に迫られて來る。（註）（產業革命當時勞働者の憤怒は機械破壞運動となつて表れた）斯の如くプロレタリヤの生活は甚だ不安なものであると云はざるを得ない。プロレタリヤが如何に働きたくても、働く所が無い。それかと云つて生活を保證しては吳れないのだ、こゝに世のプロレタリヤ共通の悲哀と不安が存在する譯である。

プロレタリヤの發生と其の役割

プロレタリヤは前に置いて述べた如く、被搾取階級である。マルクスは「歴史は階級鬪爭の連續である」と云つてゐるが、如何にもその通りで、有史以前はいざ知らず、歴史初まつてからの社會は、何時の時代を問はず、搾取階級と被搾取階級とが存在したのである。奴隷、農奴、職人等々が歴史上存在した事はすでにして明かな事である。しかし、封建治下の百姓と、こ世プロレタリヤは被搾取階級であつた事においては、共通であるが、其の形態や、搾取さるゝ方法や、搾取階級に對する反抗の形式などの點においては全然區別さるべきものである。即ち時代時代の社會的環境において、搾取者も被搾取者も著るしく、變化して了ふ。

昔の被搾取者であつた奴隷は、全く自由をもつてゐなかつた、主人の命令は絶對のものであつた。主人の命令に基づてたゞ默々として働けばよかつた。彼等は働く事によつて其の生活は保證されたのであつた。

加之、プロレタリヤは何時にても主人を代へる自由を有し、職業を代へる自由も有してゐる。法律上人格の平等も認められてゐる。プロレタリヤは往古の奴隷とは違ふ。しかし、如何に自由を表面上有してゐる[illegible]も、實際的には資本主義制度はこのプロレタリヤの自由を蹂躙してゐるのを發見するに難くない。プロレタリヤ階級が決して自由を有してゐない事は後に詳しく說明する事にしよう。資本主義社會にあつて、プロレタリヤに許された自由は、たゞ飢餓の自由のみである事を吾等は深く銘記せねばならない。

資本主義社會の被搾取階級たるプロレタリヤは、如何にして發達し、増大するにつれて如何なる影響を、現社會に及ぼすかの問題を主として本節において述べたいと想ふ。

資本主義的生産は生産機關と、プロレタリヤの分離を前提として成立してゐる。生産機關は、少數のブルヂョアジイの所有となり、プロレタリヤは自らの勞働を、資本家に賣つて、それによつて得た報酬によつて辛ふじて生存する資本家は勞働者の搾取を前提として存在するものなるが故に、なるべく安く勞働者を傭入れる事を欲してゐる。勞働賃銀が安ければ安い程、ブルヂョアの獲得する剩餘價値は増大し、益々肥滿しられるからである。この爲めには、何時迄も勞働者が無知なる狀態でゐなければならない。もし、プロレタリヤにして自覺を初めればどうであらう。彼等は自らの地位の向上を企圖して、資本家に向つて抵抗を試みるであらうから。故にブルヂョアは、飽く迄もプロレタリヤの無自覺を欲して止まない。かく、剩餘價値を成べく澤山儲け樣とするブルヂョアの爲めに、資本主義的生産は、ブルヂョアの思ふつぼにはまる樣な有利な條件を生み出した。しかし、このブルヂョアの爲めに非常に有利な條件も、一定の限られた期間だけであつて、遂には資本主義社會は自らの生み出した條件によつて、自ら墓場に行くべき運命を作り出すに至るのである。そのブルヂョアに有利な條件となり、最後は資本主義の自壞作用を起すに至るべき條件とは何であるか。即ちプロレタリヤの増大である、プロレタリヤ階級の増大、それは何故にブルヂョアに有利であらうか。私はこの問題の考究に入る前に暫く、プロレタリヤの誕生期からの考究を必要とする。

諸君も知つておられる樣に、十八世紀の中葉から、産業界に實にすさまじい事變が起つた。この事變を有名な、産業革命と稱するのであつて、この革命を一轉機として産業界はいちじるしく面目を一新した。單に産業のみに限らず、政治、敎育、道德等の方面も、面目を改めた。この産業革命は、初めはイギリスに起り、次いで海を越へてヨーロッパ大陸に傳播し、舊制度を席捲して了つた。

扨て、産業革命とは如何なる事であつたかと云へば、從來の産業を支配してゐた手工業的生産が崩壊して、大經營生産が確固不拔の根を社會のあらゆる層に擴大したのであつた。即ち、大規模生産を可能ならしめる機械の發明が、産業革命の根本動機をなしてゐた。しかし、如何に大規模の生産を可能にする機械の發明があつても、この生産された貨物に對する需要が從來の域を出なかつたなら、單に機械が發明された珍らしい事であるといふに止まり、實際生活に參與する所甚だ少かつたと云はねばならないが、當時の狀態は極めて活氣に充ちてゐた。從來のヨーロッパに固く根を據へてゐた封建制度が漸くゆるぎ初めて、商工階級は次第に優勢を占めかけてゐた。世界各地への交通が次第に安全になり、商業上の取引が盛んになつた。例へば、英國の生産物はあらゆる方面へ賣却される樣になつてゐた。大工業生産の成功は、蓋しかゝる客觀的狀態がなかつたなら、恐らく空想に終つたであらうと思はれる。産業革命を惹起した機械の大發明とはどんな機械が發明されたかといふに、西曆一七三八年には、ジョン、チェガー機織機を發明して、從來の幼稚だつた、織物業に新紀元を劃した。次いで一七七〇年には、ジェームス、ヘアグレーブスが紡績機を發明し、一七六九年にはリチャード、アークライトがジェームス、ハアグレーブスの發明した機械以上の良い紡績機を發明した。ジェームス、ワットは蒸氣機關を、ロバート、フルトンは汽船を發明し、ロバート、ステフェンソンは機關車を發明した。交通方面、生産方面において、かゝる偉大な大發明が踵を次いで世の中に現れたのであるから、その當時の如何に變革の大きかつたか想像されるではないか。吾人はカウツキイの文章を引用して見よう。

「一八三七年プロシヤにては工業界に於ける蒸氣機關の數は四二三で七、五〇〇馬力を算した。一九一〇年にはプロシヤで據付けた蒸氣機關だけでも八八、一八七になつた。工業及び農業に用ゐられる蒸氣の馬力はプロシヤで六百万馬力である。

全世界のあらゆる蒸氣機關の蒸氣が提供する勞働は、已に十年前ですら二億の馬又は十億の人間の勞働に相當すると積られた。」

この短い一節によつても、如何に機械の發明が驚くべき産業の飛躍的發展をもたらしたかと云ふ事を考へさせられる。

私は、この機械において、大經營が何故に手工業を滅亡の淵へ導いたかを考究しよう。蓋し、プロレタリヤ増大の母胎も、此處に見出されるであらうから。

手工業生産は家内生産であつた。極めて小規模な生産でも、封建制度の限られた需要には滿足を與へてゐたのである。職人も親方も同じ仕事場に働き、同じ家に寢食を共にしてゐた。彼等の生産には極めて簡單な道具さへあればよかつた。こうした道具は安價で手に入れられたので、親方の下に働いてゐる職人も何時かは自分も親方になれる希望を有し、事實上それは可能な事であつた。話題は少し外れる樣であるが、資本主義的生産の下においては、プロレタリヤは決して、手工業時代の職人がやがては親方になる希望を抱いてゐる樣な事は、事實上不可能に屬する事であつ

た。資本主義的生產方法の下においては、富は益々少數の階級に集まり、勞働者は貧乏の淵より逃げる事は容易な業ではない。手工業時代の職人は親方になる爲めには自ら修得した技術と、僅少な金額で事足りたのである。反之、資本主義社會においては、プロレタリヤが資本家になる事は、夜の夢の中においてのみ可能であつた。何故なら、資本家になる爲めにはプロレタリヤが想像する事も出來ない程の澤山の富と信用とが必要だからである。よし、プロレタリヤが自ら獨立してる程の蓄積を爲し、小經營を初めたとしても、それはやがて資本主義的生產下においては、到底其の經營が維持出來ないものである事を悟るより外には、何等の成果をも收める事が出來ないであらう。小經營は大經營の爲めに驅逐される。これは資本家的生產下においては、免れる事の出來ない運命である。

大機械の發明、それに次ぐ大工場の設立、分業の發達は必然的に手工業生產を徹底的に終つて了つた。大量生產が生產物の安價をもたらす事は分り切つた法則である。幼稚な方法で作り出す、手工業的生產物は、到底この大工場生產の敵ではなかつた。彼等はもろくも屈服しなければならなかつた。今迄作つてゐた生產道具は役に立たなかつた。賣らうと思つても、もうそれには何等の價値がなかつた。職人時代から親方になる迄年月かゝつて修業した技術は、すでに機械の精巧にとつて代へられた。職人はもう親方にならうと思つてゐた希望は、全く消えて前途は暗黑となつて了つた。親方も仕事を奪はれて了つた。手工業的生產者に取つては實に恐るべき時代が來たのである。彼等は生きんが爲めには、從來の仕事をかなぐり拾てゝ、新らしい生活の一步を踏出さねばならなくなつて了つた。即ち、彼等は資本家に其の勞働を賣つて生活しなければならなくなつた。資本家の門へその勞働を賣るべく來たものは、決して彼等のみに止まらなかつた。重い租税や、苛酷な地代に苦しめられてゐた農民の群れが無數に集まつて來たのである。此の現象は單にヨーロツパのみに限らず、いやしくも資本家的生產の行はれた所には、丁度これと同樣な現象が表れた事と思ふ。吾が日本にも、明治維新の際から資本主義が破竹の勢ひで、浸潤して來たのであつたが、矢張り同樣な現象を生んだのである。封建諸侯の爲めに苛斂誅求しられてゐた農民が、宛かも籠の鳥が廣い大空へ飛立つ樣な氣持で、都會へ都會へと集まつたのであつた。手工業生產も急に、太陽の前の月の如く、その姿を失つて行き、資本家的生產の必要とするプロレタリヤは出現し初めたのである。資本主義生產が次第に其の根を擴大するにつれて、プロレタリヤの數は益々擴大するは見易き道理である。何故なれば、人口の生產の增大ある傍、最後迄踏み止まらうと全力を擧げてあせり拔いた結果、つひに奮鬪空しく崩壞して行く小經營が進積するからである。

プロレタリヤ階級の增大は如何なる影響を資本家的生產に與へるであらうか。

云ふ迄も無く、資本家的生產に於いて、否それはたゞ資本家的生產のみに止まらず、あらゆる生產方法の時代においても共通であり得るが、生產に必要な勞働の欠乏は、最も苦痛とする所である。勞働力の缺乏は、生產の圓滿な發達を阻害し、引いてその生產の豫定通りに行はるゝ事によつて利益を得んと目論見た資本家の意氣を消沈せしめるものである。洵に現在の經濟界の根底を流るゝは利益の法則である。利益なかつたとせば如何にそれが國民生活に必要不可缺な生產行動であつても、資本家はたゞちに其の事業を國家へと押しやり、自らは如何に國民生活に有害なるものゝ生產でも、それが自己の利益になるものであつたなら、喜んで參加するに至るであらう。

資本家の利己心を滿足させん爲めには、常に自己の生產に關與する勞働力が豐富でなくてはならない。資本家にとつては、勞働の供給が、勞働の需要に對して多ければ多い程、有利に展開して來る。勞働が需要に比して其の供給が多い場合においては貨銀の下落が想像されるからである。資本家はなるべく貨銀の低下を圖らうと思惟するものである以上、かゝる狀態は極めて喜ぶべき現象であらう。しかし、それは何事をするにも利己心を前提としてゐる資本家にとつては甚だ喜ぶべき狀態かも知れないが、一般社會的道義心の上から考へて實に憂慮すべき狀態であると云はざるを得ない。即ち社會の大多數者たるプロレタリヤが貧困に陷入るからである。資本家側の勞働に對する需要に比して、プロレタリヤが增大するといふ事は、失業してゐる者は云ふ迄も無く、現に勞働に從事してゐる勞働者にとつても一の大なる脅威がある。彼等は、この勞働豫備軍によつて、牽制され、絕えず自らの失業の日を恐れおのゝくからである。資本家側は、勞働豫備軍を楯に取つて、勞働者の自覺に基く地位改善の運動をも阻止する。資本主義社會においては、プロレタリヤの增加は、プロレタリヤ自身の頭痛の種である。しかしプロレタリヤは、何時までも、飢餓に迫られる狀態を默認し、それに盲從してゐられるだらうか。彼等は生存に關する赤裸々な生活事實からして資本家に對する反抗の念を感ずる。初めはたゞ淡然たるものであるが、先覺者の叫びや、時の經過と共に益々猛烈を極める生活難に驅られて次第に明確な階級意識を抱藏するに至る。(二十五頁へ行く)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

映畫物語

ヴォルガの船人

原作 レノア・コフイ女史
小川友三郎

○

時――ロシア革命の前後
所――北歐の巨河ヴォルガの河畔
人――貴族、美姫、船人、兵士、其他
話――革命に纒はる哀話惱ましくも奇しき戀物語
唄――曲は有名なロシア民謡（シャリーピン原作）ヴォルガの船唄

○

此のヴォルガの船人に就いて前述としまして少し申上げますると、五百餘年の幾久しい昔から、陰慘な生活を繰返して居た所のヴォルガ、ボートマンの名は詩となり、歌となり、オペラとなり、映畫となつて、今は全世界人の腦裡にこびり付いてゐる。ことに無產階級運動をする者には一つの希望として喜ばれてゐるのだ。

それ程に我れ等には必要なのだ。

ロシア革命を背景とせる中に深刻であり、印象的な、熱狂的な悲しきエピソートが取り扱はれてゐる。

嗚呼あの大革命の眞最中にも、生死を越脫して美しき姬と、氣慨に富み、理想に燃える若人、ボートマンとの眞面目なる戀の紅の花は咲いたのである。

げに○○は偉大なり。

○ ○

極北の大地を北から南へ貫く大河ヴォルガの悠久の流れは、無心の儘、幾千年の昔ながらに、歷史もなく、未來もなく、大自然の姿をして今も尚その巨軀を横たへてゐる。只、河邊に寄する漣波は、人の世の愛慾を洗つて、時には亂れ、時には濁れどやがてはもとの靜けさに返る。

巨河ヴォルガ！

河下から聞えてくる大衆のかすかな聲、その曳く聲は……うらむが如く、怒るが如く、歎くが如く、呪ふが如く……やがて、それは鮮血に染む鞭に打たれ、重き荷を曳く、虐げられた船人の唄となつた。

それは過ぎ去つた遠い昔から、人馬と呼ばれてゐた人達の、明日もまた、繰返されねばならない悲しい、シンホニイであつた。

ヴォルガ河畔に由緒ある古城が聳えてゐた。時は、晩春、地は滿緑に彩られ、空は澄み渡つた、ある日の午後の事、青年士官、貴族である、デミトリ・イ、オルロフは、許嫁の美姬ヴェラを伴ひ、甘き囁きを交し乍ら、船人の歌ふ船唄をよそに、風光佳絶なヴォルガ河畔を、ターター、キャンプへ自働車を驅つた、そして、ターターの娘へ卑賤のマリウシヤに二人の將來を占はせた時、偶然にも、鮮血に似た葡萄酒の滴りが不吉を示す色を、三枚のカードに染めた。

此の些細な出來事がやがて、彼等の全生涯に豫想も出來ぬ戀事を引き起す前兆となるとは、知る由もなかつたのである。

× ×

えこら！ えこら！

× ×

も一つ！ えこら！
えこら！ えこら！
も一つ！ えこら！
そら曳いた、船を、
そら卷いた、綱を、
アイダダ、アイダー！
アイダダ、アイダー！
樺の木に、卷いた。
えこら！ えこら！
も一つ！ えこら！
えこら！ えこら！
も一つ！ えこら！
そら曳いた、船を、
そら卷いた、綱を、
アイダダ、アイダー！
アイダダ、アイダー！
樺の木に、卷いた。
えこら！ えこら！
も一つ！ えこら！
えこら！ えこら！

× ×

革命の痛みも唄にまぎれて感じない、潮の流れに逆らつて、川の上流下流に荷足船を曳く船人はこの國では人馬と呼ばれて居た。

常には、老を救ひ、若きを助け、肩に懸けた呪ひの綱を、運命のきづなとしてゐながらも不屈の血は全身に漲つてゐた。

壯兒フエオドルは、倒れた友のヴアシリイの喉を潤すために掬ふた一杯の水が、時あだかもその所に來てゐた、青年士官で貴族のチミトリイ、オルロフの清められた長靴にふれた、その理由から、フエオドルの顔面からは血がひたたれた、そこにも慘忍な出來事は、繰り返されるのであつた。

慘忍なる貴族デミトリイ、オルロフはあらぬ限

りのぷぺつを彼れフエオドルになした。ことに許嫁の美姫ヴエラに見せる爲にやつたのだ。

美姫ヴエラもデミトリイ、オルロフのあまりの慘ぎやくさに驚き、その手をおさへてやめさせたのだ。

壯兒フエオドルは、涙をのみ血のしだたるをおしこらへて、今に見てろ！時代は流れ行く、ボオルガの水も流れてゐる、我れ等勞働者の天下も、かならず來るのだ、その時こそは〳〵、ふくしゆうだ、復讐だ！

と去り行く二人を呪ふが如く見つめた。

悲壯な船唄、フエオドルの雄々しき姿は、美姫ヴエラの胸底深く刻み込まれて、忘れ得ぬ惱みとなつた。

× ×

悠久無邊、暮色に包まれた、巨河ヴオルガに、時ならぬ漣波は立つた。

闇黑の夜から黎明の朝へ、卑屈から……自由へ……永い〳〵眠りは靜かに覺めた。

そして起つた！そして立ち上つた。そして大股で歩き始めた。

そして、心からの悲壯な船唄のコーラスはもうその時から、この地に聞くことは出來なくなつた。

× ×

オルロフの下にも飛電が來た。

彼れが出發した後、ウエラの邸へ歴史をほこるニキタの古城へ、雜然と武裝した、フエオドルの一群は訪れた男も、女も、老いも、若きも……。

恐怖に戰く召使ひを制して、ヴエラが心よくフエオドルを歡待してゐる時、ヴエラ一族の忠僕はフエオドルを打つため、誤つて彼の親しき同志ヴアシリイを射殺して了つた。

彼等の一群は怒つた。そして意地惡きマリウシヤの發言に從つて、若き同志の死の代償として、姫ヴエラの命を斷つと絶叫して熄まなかつた。

そして決議の結果、若き生命には若き生命もつて代へるべきと決せられ、姫ヴエラを殺すことにした。

× ×

沈着勇壯な姫ヴエラは、彼女の最後の死を、愛する壯兒、フエオドルの手に依らんことを求めた、限定された、其の後の五分間、彼女は從容としてキイに向ひ、愛誦の船歌を口ずさみ、船人フエオドルに其の意中を告げた。然れど、彼を信ずる事厚き、別室の群衆を思ふとき、フエオドルは涙をのんで、死の宣告を與へねばならなかつた、時計の刻みは速く、その最後の五分を過ぎんとした時フエオドルは短銃を取り、彼女の胸に迫つた。怖ろしくもふるえるフエオドルの腕、自若として死につかんとする可憐なヴエラ、外は狂踏亂舞。

義にも勇めば、情にも厚きフエオドルは、遂に意を決した。そして彼の女に死を裝はせ一發の銃聲に、隣人の胸を瞞着せんとしたのであつたが、其の最後の策も、彼に戀を寄するマリウシヤに看破され、玆に、止むなく、死を賭して、彼等の下を脱走し、馬車に乘じて追跡を遁れ去つた。

× ×

逃走に身心共に疲れ切つた、フエオドルは、ヴエラを田舍娘に變裝させ、片田舍のとある、旅舍に、身を潜めたのであつたが、間もなく此の旅舍は、進軍中のオルロフ白軍の手に依つて包圍された。

ヴエラの切なる、勸めに依り、何等の反抗もせず、二人は捕はれの身となつた。そしてフエオドルは監禁され、ヴエラは醉れるオルロフの部下に拉せられ、その狂亂の酒席に限りなき侮辱は加へられんとした。

× ×

ヴエラの行衛不明の報に、オルロフの惱みは增したが、計らずも、部下の酒席に、ヴエラの姿を見出した時、オルロフは、やがて、フエオドルに對する極刑と代つて行つた。

そして、その祝宴の日……百の美花は盛られ、千の燭は點ぜられ、肉林、酒池、宴の席は惱みを知らぬ美裝の人々の極樂境となつて行く、……その對照として、庭前の鐵の門扉には殘虐なオルロフの命により、捕はれ人フエオドルは、固く縛され、銃殺の宣告を待たねばならなかつた。

死體を埋むる穴は掘り進められ、居並ぶ銃眼は差し向けられた、ヴエラの哀願も聞き入れられず、今は愛するフエオドルと共に、死を選ぶ決心をしなければならなかつた。纏綿として流るゝ情緒、オルロフの怒りは鬼と化した。

宴人の席の窓は開け放たれ、この悲壯な光景を眺むる人々の瞳が、異常に緊張した時、嚴かなる銃殺の命は下された、美姫と壯兒の命を斷つために。

× ×

曉の空を徹して聞こゆる曳々の聲、重き荷を曳くと見せた船人の群は次第〳〵に增して宴の館に迫つて來る。そして又、いとも靜かに巷に入る、限りなき荷馬車の群は、未だ眠りから覺めぬ街路に充ちて來る。

そして、總ては、秩序よく、運ばれた。唯時を待つ許りであつた。

× ×

フエオドルとヴエラの死が目前に迫つた瞬間、その瞬間、眠れるものの夢を破る凄聲は、宴の館の大半を崩壞した。

驚き彷徨ふ人々、傷ける人々、斷末魔の悲鳴も凡てが突如として起つた慘事であつた。驕れるものの享樂境も、今は修羅の巷と化して、オルロフ始め、生き殘る部下は、遂に捕はれの身となつた。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

そして、フエオドルもヴエラ共々、危機を脱する事が出來た。

×

フエオドルは、彼の意志を示すために、オルロフ等の裁きを命ぜられた。彼等を裁き、自らを裁き、尚、ヴエラの心を確むる爲めに、船人と代つて、重き船を曳く身となつた。潮の流れにさからつて、船は上る、昨日の樣に、だが、曳く人も、曳かする人も、昨日のそれではなかつた。唯、聞ゆる船唄はフエオドルとヴエラの、口から漏れる力強きコーラスである。

×

最後の裁きの日は來たり、情厚き陪審者は、フエオドルとヴエラとを許し、オルロフには放逐の道を選ばしめた。

×

輝きの太陽は照り榮え、働きと希望の道は開け、そこに憎しみも、呪ひもなく、大自然の懐に抱かれた、巨河ヴオルガは、再びもとの靜けさに返つた。

一九二八、四月

進め社だより

世は春だ。らんまんの櫻が咲く

しかし、世は生活難、櫻はつひに民衆の爲めには咲かぬ、貴人の爲めに咲きほこる、上野をうづめ、日比谷にうづまる數十万の人々は、いづれも資本主義文明に住みつかれた人である。自暴自棄的な花見の裏には、暗い憂鬱がひそんでゐる。たゞ、生活難に苦しみながらも、花と共に脈々の血に燃ゆるものは、無産運動の闘士のみだ吾等はさくらの花をして、全民衆の櫻たらしめねばならぬ。

×

櫻は散りて貴人等の
榮華の夢のさめし頃
青葉の風の送り來し
プロレタリアの紀念祭

メーデーは來た。東京のメーデーは、平常は芝から上野へであつたが、今年は博覽會の爲め、洲崎から芝への行列に變更された。あゝ銀座街頭、メーデーの旗はなびく。

×

勞農黨の解散、共産黨の檢擧共に反動政府の正體を曝露した。日本には言論、結社の自由なし。吾等の戰ひは猛烈たらざるを得ぬ。しかし、日本共産黨及びその近系の暴言は許す事は出來ぬ。彼等は日勞黨の政府への抗議をもつて、勞農黨の解散を喜びながらもさあらぬ態をしてゐると中傷し、日勞黨は大衆團體のブツこはしには抗議してゐるが、大衆團體からコンミユニストを引離す事には贊成してゐるとなして、日勞黨は共産黨檢擧を喜んでゐると、得體の知れぬ暴言を吐く。彼等はうそぶく。即ち、日勞黨は前衛を宗派主義者として排撃したではないかと。馬鹿、日勞黨の意志は大衆團體に前衛の指導權を怠つた事があるか。宗派主義者は前衛であつたか、彼等は支配階級の分割政策の手先をつとめたちやないか、宗派主義者を前衛だと思つてゐるから、日本の運動が混亂するのだ。彼等には、ビラをまくぐらひの小兒病的勇氣と中傷する口より持つてゐないのだ。こんな奴はたゝき出せ。しかし、吾等は反動政治に抗議しその最大の基礎を戰線統一に求めるのだ。

×

同志上杉は徴兵檢査で去る十二日郷里島根へ歸つた。今年から、旅費が出ぬので、重ね重ね、憤慨してゐた。筋肉隆々たる上杉君の事だからどうなるか、先に赤尾君を松本聯隊に送つた我社にとつては、注目してゐる。

×

今月は可成り力作を網羅した筈である。勞農黨解散に際して、福田氏に乞ふて、日本平民黨時代の思出を書いて貰つた。參考たるを失はぬてあらう。又、メーデーに因んで、日本最初のメーデーの思出を高田氏に依頼したが、快諾されて寄稿して下さつたのは感謝に堪えない。

讀者諸氏の健在を祈る。（神庭）

×

本部より四軒目の舊勞農黨本部に於いて、新黨組織準備委員會があつた。午後二時頃、日比谷警察署長によつて解散を命ぜられた。共際、本部前を×に追はれて一目散に逃げて行く、田舍風の男があつた。誰かと見れば、それこそ舊勞農黨中央委員横田忠夫、元進め社本部の保證金千圓の持逃犯人である、斯かる人非漢が舊勞農黨の中央委員とは、よくも好い釣合である。舊勞農黨が常に大衆を侮辱し、又遂に解散せられしは、かゝる不逞漢の巣窟であつたからではなからうか。

卑怯犬の遠吠へ

大阪十三と云へば、我が進め社の大阪事務所の所在地である。一師範生と云ふのだから萬更無學な無智な人間ではなさそうだが、東京鈴ケ森迄、はがきを出す位なら何故大阪の進め社に出て來ないのだ。階級的立場とか、果敢な闘爭とか、觀念病患者の寢言を並べてゐるところを見れば、あんまり階級的立場や、果敢なる闘爭に關係のない夢遊病者の群の一人らしいが、三寸に四寸六分の葉書に、千餘文字も克明に書き列ねる暇があるなら、大して忿がしい身體でもあるまい。匿名で減らず口を叩かずに堂々と語りに來い。

汝等のような卑怯者と語ることは、吾々は尻の穴と話をするような氣もするが、仕方がない闘爭の一端として話してやらう。

師範學校に學びつゝあるところの將來の民衆去勢執行者の一師範生よ、ブルジョアジーの飼犬よ、飼主のブルジョアジーの手先きよ門の中で吠へてゐずに、勇敢に飛びかゝつて來い。

吾々の叫びは檻の中で聞いてゐる蓄音器のレコードとはちつたあ違ふぞ。

葉書の文字の蹟を見れば、大體の見當はつくが、どうやら上海迄小便して行つて來た彼の反動ユスリストではないか。

兎に角正體を現して來い、尻尾を出せ。と云つてもメツタに尻尾は出せまい、○かまれるからなあ――。矢張飼主の門の中で吠へてゐるか、それが一番安全だから。

さらば大阪十三の一師範生と名乘る番犬よ忠實に門を守れ。

―（大阪源藏）―

最近進め社員と稱して地方を歩き廻る者ある由、斷じて社員にあらず注意されたし

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人良薬
喜谷實母散
産前、産後、血の道、引風、冷込等に特効有
▲全國到る處に販賣す
本舗
東京京橋區中橋大鋸町
喜谷市郎右衛門
電話京橋 五五番 五六番

ミオン
ビール

德力
金.銀.白金
德力商店
東京神田松田町
電神 25 { 216. 235. 221. 976. 450.-(營業用)

社會科學月報
ソシウス
一部五錢
送料二錢
一年六十錢
淺野研眞主幹

『ソシウス』既刊要目
◇創刊號(二年十月) 産兒制限號
◇第二號(二年十一月) 宗教批判號
◇第三號(二年十二月) 教育批判號
◇第四號(三年一月) 藝術批判號
◇第五號(三年二月) 農村問題號
◇第六號(三年三月) 道德批判號
◇第七號(三年四月) 婦人問題號

東京青山アパート七九號
發行所 ソシウス社
振替東京一三八九番

無産大衆の戰鬪的政治新聞
(週刊)
日本勞農新聞
讀め!! 眞の無産政治新聞を!
定價 一部五錢 一ケ年 一圓五十錢
日本勞農新聞社
東京芝公園五號地
振替東京四六六四九番

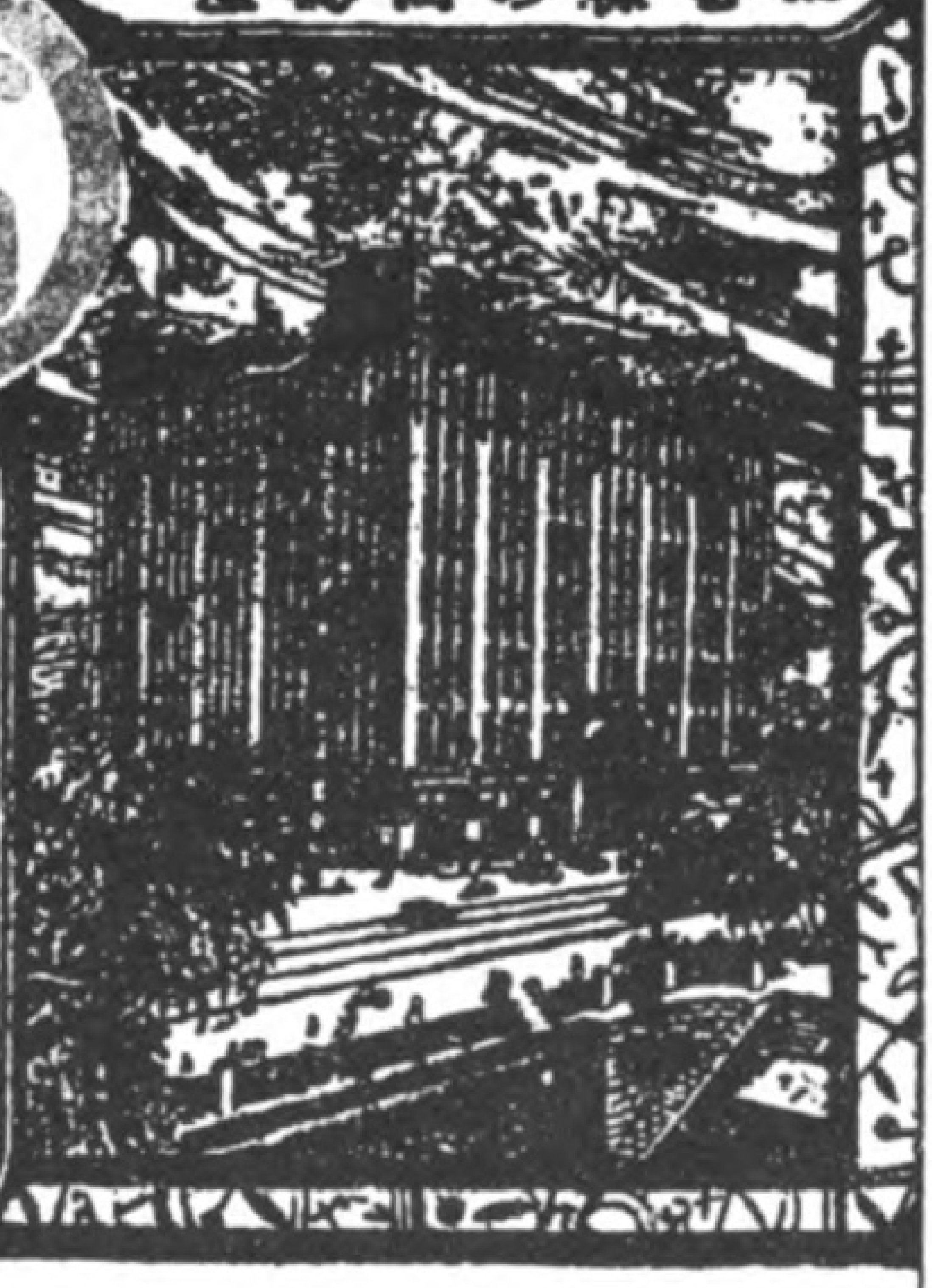
創刊號(メーデー號)
第一戰線
吾等如何に戰ふべきか(卷頭言)
階級文學理論の確立 村松正俊
藝術の階級的分野 小川友三郎
民主主義藝術を排撃せよ 村井秀雄
すべて鬪爭を通じて 金子益太郎
新らしき戰線へ 木村毅
ソビエット作家團の結成 尾瀬敬止
一勞働者より 花野富藏
講座
デーモクリートスの自然哲學とエピクーロスの自然哲學の差違 マルクス
詩篇
プロレタリアの旗 藤九郎
吾等の分裂式 宇津木正夫
どらは鳴る 白樺柴子
五月一日 荒川龍吉
メーデーの朝(小說) 山川亮
淫賣婦にするもの(小說) 永見德保
壁新聞(小說) 長野卓夫
本橋次左衛門(特別讀物) 松本淳三
附錄全サウエート作家漫畫集
定價三十五錢
發行所 東京市外野方町上沼袋七十七 全藝術同盟 第一戰線社

大正十二年一月三十日第三種郵便物認可
昭和三年五月一日發行
同　三年四月廿八日印刷納本
第六年第五號
每月一回一日發行
定價一部十錢（稅五厘）半年六十錢一年一圓（稅共）
廣告料　一行一圓　一頁三百圓
發行所　東京市麴町區内幸町一丁目五番地（振替東京六九八五三）進め社本部
發行編輯兼印刷人　[illegible]之助　大阪市東淀川區十三西之町一三一　大阪事務所

編輯印　揮發油
日本石油株式會社

賣發の品製新
チューブ入　仁丹の練歯磨
高人の御嗜好と齒科學の精粹より生れたる優秀品
改裝せる懷中藥仁丹
仁丹特有の芳香は胃腸の消化力を促進し身心の爽快を覺ゆ

新界の發賣高級
封温湯の丹仁

お客様の髙島屋
實質本位の百貨店
髙島屋呉服店


清新な趣味と實用に綾なす
内外のあらゆる流行品豐富
地方よりの御註文は御手紙にて通信販賣係宛に御願ひ申します
三越呉服店
大阪市高麗橋